

平成 29 年度事業報告について

平成 30 年 6 月

公益財団法人大阪市博物館協会

# 平成29年度事業報告について

## はじめに

平成29年度、大阪市博物館協会は設立8年目、公益財団法人としては6年目を迎えた。

これまで、大阪市から受託している博物館・美術館の管理運営は、当協会設立当時の平成22年度から平成25年度までの4年間、平成26年度のみの1年間に続き、平成27年度以降について、停止条件付で31年度末までの5年間の指定管理期間の内3年目を終えた。

大阪市においては、平成28年12月、博物館群のめざす姿やその実現に向けた取り組みとして「大阪市ミュージアムビジョン」が策定され、その実現にふさわしい経営形態は地方独立行政法人であるとしたうえで、昨年3月、「博物館施設の地方独立法人化に向けた基本プラン」が取りまとめられ、その中で地独法人を平成31年4月の設立をめざすとされた。

大阪市の平成29年度予算には地独法人化に向けた準備経費も計上され、具体的な設立準備が進められており、当協会としても大阪市の状況を踏まえて、法人設立に向けた準備を鋭意進め、円滑に移行させるための作業を主体的に進めているところである。また、本年2月の大阪市会本会議においては、「地方独立行政法人大阪市博物館機構定款の制定について」が可決され、法人の目的、名称、業務の範囲等について定められたところであり、来年4月の法人設立に向け、大阪市と役割分担し、特に当協会の職員が法人においても主要な役割を担うことになることから、人事給与制度の設計に当たっては、当協会が主体的に関与しており、また、大阪市における中期目標の策定に当たっても、これまで当協会が担ってきた事業が円滑に継承できるよう、引き続き積極的に関わっていく。

一方で、この間、地独法人化を踏まえた文化財研究所のあり方についても、大阪市、大阪市教育委員会と協議を重ねてきており、大阪市教育委員会からは本年3月、「今後の埋蔵文化財保護行政の適切な推進には、事業の継続性の担保、文化財研究所のあり方など現状でも多くの課題があるが、将来の業務体制を整えていくには、十分な検討とともに、組織構築には相当の期間が必要であり、豊富な経験・実績を有する文化財研究所の活用が必要」との見解が表明されている。

当協会としても、大阪市教育委員会の見解を受け、これまで行ってきた事業の円滑な継承、文化財研究所の組織・体制や業務のあり方、職員の雇用の確保など、さまざまな課題について、大阪市、大阪市教育委員会及び関係先と検討・調整を行ってきており、大阪市及び大阪市教育委員会からは、大阪市における埋蔵文化財保護行政を推進する業務体制の検討にはなお時間を要しているが、来年4月においては、文化財研究所事業を実施する大阪市の外郭団体として当協会を存続させ、活用していく必要があると聞いており、当協会としても、地独法人による博物館施設の管理運営開始後の存続する団体の組織・体制づくりを着実に行い、埋蔵文化財保護行政の適切な推進のため、文化財研究所事業を円滑に継承していく。

また、当協会においては、この間、大阪市の地独法人化を踏まえた準備作業、文化財研究所の今後のあり方についての取り組みを進めていくことに併せて、各種の事業を施設ごとに、また相互に連携しながら実施しており、ここではまず公益財団法人への移行を認定された際の「協会事業の位置付け」と平成28年度に策定した「協会経営計画」を再確認した上で、平成29年度事業について報告する。

## 1. 協会事業の位置付け

協会事業を公益目的事業・収益事業等として位置づけ、平成24年4月から公益財団法人として事業を実施している。

### (1) 公益目的事業

この事業については、次の9事業で構成されており、隣接する分野の事業を相互に関連づけて総合力を発揮することにより、一層の効果を上げている。

- ① 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）
- ② 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）
- ③ 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）
- ④ 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）
- ⑤ 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）
- ⑥ 体験活動事業（自主事業）
- ⑦ その他活動（自主事業）
- ⑧ 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）
- ⑨ 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）

### (2) 収益事業等

#### ① 収益事業

施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

#### ② その他の事業（相互扶助等事業）

友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業

## 2. 協会の経営計画

経営計画は平成28年6月に策定され、団体のビジョン、行動指針（計画）、経営目標が定められている。

### (1) 団体のビジョン

- ① 大阪市の博物館・美術館の実績・伝統を継承するとともに、インバウンドなどの環境の変化を見据えながら新たな魅力を創出する。
- ② 都市大阪にふさわしい、国内外からのさまざまな利用者ニーズに応えられる博物館をめ

ざす。

- ③ 大阪市の博物館・美術館の相互連携によって総合力を発揮し、国内外への都市大阪の魅力の発信拠点をめざす。
- ④ 35年をこえる遺跡の考古学的調査を活かした確かな知識と技術にもとづき、文化財の幅広く総合的な調査研究を行い、その成果を広く発信する。

## (2) 行動指針(計画)

- ① 実績・伝統により蓄積された財産を継承し、収集・保存、調査・研究活動により財産の充実をはかり、さらに社会環境の変化に応じた有効活用をはかる。[ビジョン(1)]
- ② 大都市「大阪」で、集中して立地する特性を活かし、市民の博物館施設利活用を促すとともに、社会資源や産業界との連携をはかることで、まちの活性化と発展に貢献する。  
[ビジョン(2)(3)]
- ③ あらゆる世代、さまざまな利用者が、多様な学びや活動の場として活用するための支援と多言語化を含めた環境整備に努める。[ビジョン(2)]
- ④ 知識・経験・技術等を共有したり、展示や広報での連携を通じ、多様で質の高い事業を展開する。[ビジョン(3)]
- ⑤ 連携や協働を通じた博物館活動の活性化と、柔軟な発想により、新たな都市魅力の創出をはかる。[ビジョン(3)]
- ⑥ 国内外に向けてさまざまな手段で情報発信し、新たな魅力を伝える。[ビジョン(3)]
- ⑦ 発掘調査成果の迅速な公開に努めるとともに、博物館と連携しつつ、その積極的活用をはかる。[ビジョン(4)]
- ⑧ 安定した経営のため、博物館施設や文化財研究所において寄附金・協賛金など外部資金を含めた収入の確保を図りつつ、経費については増加要素もあるが、様々な削減に努め、効率的な運営を行う。

## (3) 経営目標

### 目標1 指定管理4施設全体の常設展入館者数の増加

(目標) 5年間で2%増 平成27年度657千人 → 平成32年度670千人  
[平成29年度] 713千人

### 目標2 各館の事業成果や広く国内外の作品を紹介する特別展の充実

(目標) 年間で13本程度を開催  
[平成29年度] 15本

### 目標3 講演会や体験学習等を通じた資料や研究成果の積極的公開・活用

(目標) 年間500回・参加80,000人程度を維持  
[平成29年度] 478回・65,315人

### 目標4 指定管理4施設全体での学校利用の促進

(目標) 年間延べ1,000校以上を維持  
[平成29年度] 1,032校

目標5 当協会所管の各館所並びに(公財)大阪科学振興協会・大阪市立大学など関係機関との連携事業の展開

(目標) 年間140件以上を維持

[平成29年度] 116件

【大阪市博物館協会 基本方針】

1. 各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出します。
2. 都市大阪にふさわしい、さまざまな来館者に応えられる博物館をめざします。
3. 相互の連携によって総合力を發揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざします。
4. 点検・評価を行い、ニーズに則した事業の実施と効率的な運営をめざします。

## 1 大阪市博物館協会の概況

当協会では、平成 29 年度において、指定管理施設の常設展入館者数の増加など、5 つの経営目標を掲げ、その達成に向けて取り組んできた。

博物館・美術館の常設展入館者数は、インバウンドの増加傾向が一段落したことや、自然史博物館の特別展「メガ恐竜展」を館外（ATC）で開催したこと、歴史博物館で大規模な共催展がなかったことなどから、目標値（74 万 6 千人）を約 4% 下回る 713,313 人で、前年度比 92% となつた。前々年度の平成 27 年度比では 108.5% で、引き続き堅調に推移している。特別展の開催回数は 15 回で、目標値を達成し、「メガ恐竜展」「ディズニー・アート展」などの大型展が人気を呼んで多数の来館者を集め、また「木×仏像—飛鳥仏から円空へ」「ヘレンド展」「渡来人いすこより」などの自主企画展も好評であった。特別展の入館者数は 606,019 人と前年度を下回つたが、平成 27 年度（394,720 名）と比較すると増加傾向となっている。常設展と特別展、および美術館の地下展を合わせた入館者数は 1,619,019 名となり、前年度 89.7% であった。講演会や体験学習等については、事業統合などの影響により、実施回数・参加者数とも前年度を下回る結果となつた。

学校団体利用については、児童・生徒数の自然減に加え、校外学習に充当できる時間の減少、観光バス料金の値上げ等により近年は減少傾向であったが、平成 29 年度は前年度につづき目標を達成することができた。連携事業では、大阪市立大学との包括連携協定に基づく事業をはじめ、各館・研究所の関係先との日常的な取り組みにより継続的な活動を行つたが、実施回数は目標値の 83% にとどまった。

平成 29 年度の決算状況については、経常収益が経常費用を上回り、当期経常増減額は、約 6,700 万円となつた。大阪文化財研究所における保存科学事業収益の受託は増加したもの、文化財調査受託事業収益は減少し、指定管理 4 館においても入館者数が昨年度より減少したため、経常収益は平成 28 年度に比べ減少した。一方、文化財研究所での工事請負費や、指定管理 4 館の展覧会事業費が減少したこと、経常費用も平成 28 年度決算額を下回つた。経常収益、経常費用ともに減少し、収益の減少が費用の減少を上回つたため、収支差額は約 6,700 万円となり、前年度約 1 億 6 千万円に比べ 9,300 万円減少した。

館蔵品の収集では、寄付による収集が中心となっている。大阪歴史博物館では 4,719 点の寄付を受け、29 年度末館蔵品総数 143,314 点。自然史博物館では 35,075 点の寄付を受け、29 年度末総資料数 1,719,202 点。美術館では 17 件の寄付を受け、29 年度末館蔵品総数 8,490 件。東洋陶磁美術館では 294 点の寄付を受け、29 年度末館蔵品総数 7,195 点となつた。

平成 29 年度は、指定管理施設への海外からの来館者増加に対応して、文化庁補助金を活用し、多言語化・国際発信の強化をはかった。ホームページ、施設案内パンフレット、紹介映像、展示解説等の多言語化に取り組み、ボランティアへの研修を実施するなどした。

平成 30 年度も、引き続き来館者サービスの向上をはじめとする活動の充実に取り組むとともに、文化財研究所の発掘調査受託をより積極的に獲得し、効果的・効率的な経営に努めてまい

りたい。

地震に対する取り組みとしては、各館における展示品・収蔵品、観覧者・職員に対する地震被害の低減を目的として「地震に対する減災対策指針」をまとめ、各館においてまず短期的な対策を講じた。

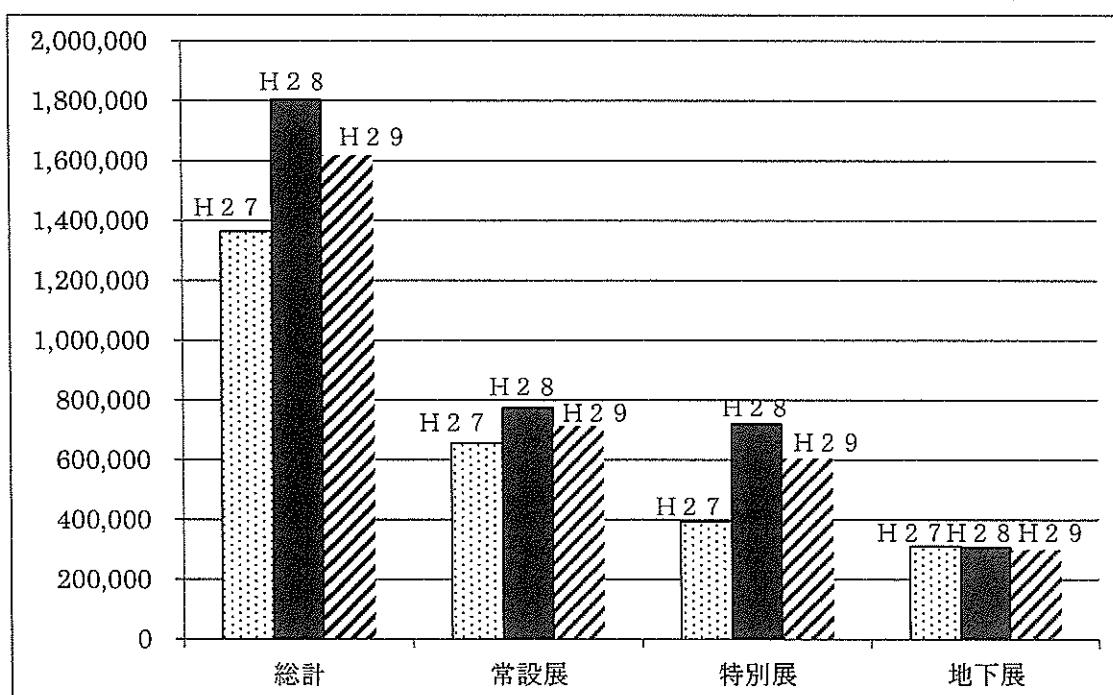
各館の入館者数

単位：人

		大阪歴史博物館	大阪市立 自然史博物館	大阪市立 美術館	大阪市立 東洋陶磁美術館	合計
常設展	27年度	339,200	214,822	39,005	64,156	657,183
	28年度	391,862	244,587	19,773	118,749	774,971
	29年度	355,615	193,431	68,556	95,711	713,313
特別展	27年度	60,744	115,205	164,950	53,821	394,720
	28年度	108,771	133,483	361,906	116,612	720,772
	29年度	58,770	201,035	254,653	91,561	606,019
地下展	27年度	—	—	312,863	—	312,863
	28年度	—	—	309,404	—	309,404
	29年度	—	—	299,687	—	299,687
小計	27年度	399,944	330,027	516,818	117,977	1,364,766
	28年度	500,633	378,070	691,083	235,361	1,805,147
	29年度	414,385	394,466	622,896	187,272	1,619,019

入館者数の年度比較（左・27年度、中・28年度、右・29年度）

単位：人



## 2 ミュージアム魅力発信事業

協会では、経営計画に基づき、協会各館・研究所が相互に連携した事業、外部の関係機関と連携した事業、協会としての共同広報事業などを「ミュージアム魅力発信事業」として実施し、民間事業者等とも連携を行っている。平成 29 年度は、博物館・美術館ポータルサイトや SNS アカウントの運営などを行い、民間事業者と連携して広報誌「Osaka Museums（大阪ミュージアムズ）」をリニューアルするなどした。

学校連携・大学連携では、「教員のための博物館の日」を継続して行い、大阪市立大学との連携事業としてはシンポジウム「秀吉の三都」、講演会「大阪平野のジオヒストリー」など、市民が関心の高いテーマの催しを実施した。

また、文化庁補助金を活用し、大阪市立科学館、大阪新美術館建設準備室、大阪観光局等とも連携して、各館ホームページ、パンフレット、展示解説などの多言語化に取り組み、新たに制作した紹介映像などによって国際発信を推進した。

### 1. 広報・発信事業

平成 27 年度から発行してきた広報誌「Osaka Museums（大阪ミュージアムズ）」について、新たな民間事業者と提携し、これまでのタブロイド判から A4 判の冊子体にリニューアルして、第 5 号（3 月、4 万部）を発行した。協会が運営する各館・研究所と科学館の魅力や展覧会情報などを斬新な視点で編集し、幅広い利用者に向けて発信した。大阪市内外の博物館・美術館や、図書館、区役所等の公共施設、生涯学習施設のほか、ホテル、銀行や大型量販店をはじめとした商業施設等にも設置した。

各館・研究所の広報活動を支援するため 26 年度に開設したポータルサイト「Osaka Museums」については、平成 28 年度に文化庁補助金により多言語化し、海外への発信を強めている。また、同ブランドの SNS（Facebook、Twitter）による情報発信も実施した。

ホームページの平成 29 年度のアクセス数は月平均 11,662 件で、総アクセス数は 139,942 件を数えた。Twitter フォロワー数は、28 年度より約 500 増の 2,596 となり、ツイートインプレッション（ツイッターを見た人）の数は 500,687、Facebook のいいね数は 889 であった。

また、1月末から新たな試みとして、動画共有サイト YouTube に大阪市博物館施設を紹介する動画を公開した。これは文化庁補助金を用いて制作した「Osaka Museums」10 館を紹介するプロモーション映像で、日本語版に加え、英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語の多言語対応とした。2 月からの約 2 か月の総視聴回数は 2,134 回で、韓国、アメリカ、台湾、イギリス、香港等の海外からのアクセスもみられた。

ホームページ、SNS、YouTube のアクセス数は、いずれもいまだ低いレベルにあり、それを改善するため、効果的な記事投稿や関係施設とのリンクを拡充するなどして、裾野を広げる活動に取り組んでいく。

その他の共同広報の一環として、関経連主導の外国人旅行者向け統一交通バス「Kansai One

Pass」や、大阪市交通局の夏・冬休み事業である「おでかけ KID'S サマー Pass」、「おでかけ KID'S ウィンター Pass」等に協力した。

## 2. 文化庁補助金による多言語化の取り組み

平成 29 年度文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」補助金を活用し、大阪歴史博物館を中心館として、協会各館・研究所および科学館、新美術館建設準備室の多言語化事業に取り組んだ。補助金総額は、23,840,490 円である。

パンフレット作成では、美術館のパンフレットを刷新して多言語化し、館概要や主要コレクションを紹介するとともに、鳥瞰図を用いてアクセスを分かりやすく説明するなどした。東洋陶磁美術館でも中国語パンフレットに繁体字版を追加した。インバウンド増で需要が高まっている既存の総合案内パンフレット「Osaka Museums Guide」(4 か国語対応)は、題字を言語ごとに色分けするなどの改訂を施して増刷し、観光案内所やホテル等へ配布した。また、歴史博物館では館内の配布物として、常設展示場の総合ガイダンス映像解説シート「3 分でわかる 都市・大阪の歴史」を 4 か国語で新規製作し、スタンプラリーシートも、従来の日本語・英語に加え、中国語（繁体字・簡体字）・韓国語版を製作した。

ホームページでは、東洋陶磁美術館で中国語繁体字を追加し、新美術館建設準備室では解説を拡充し、科学館では自動翻訳を導入するなど、多言語発信の充実をはかった。また、「Osaka Museums」10 施設を「開館 10 分前」というコンセプトで取り上げた紹介映像を制作し、全施設版と各施設版（いずれもショートバージョンとロングバージョンがある）を日・英・中（繁体・簡体）・韓の多言語により、YouTube などで公開した。

展示等の解説としては、自然史博物館で QR コードなど ICT を活用した多言語による展示解説電子ブックを導入し、科学館では英語による解説パネルを付加した。また、自然史博物館では学芸員による英語字幕付き解説動画を制作した。歴史博物館では総合ガイダンス映像の字幕製作を行い、科学館でもホームページ等で見ることができる解説動画に字幕を付け加えた。

放送関係では、東洋陶磁美術館で英語による館内放送の音声製作を行った。

ボランティアスタッフを対象として、歴史博物館では初步的な語学研修と異文化理解に関する研修を実施し、参加者の好評を得た。また、ボランティア活動に関する多言語による案内板も製作した。

外国人観光客動向調査を歴史博物館（8 月～9 月）と東洋陶磁美術館（10 月～11 月）で実施した。対面アンケート形式で外国人観光客の大坂での滞在日数、来訪施設等の動向や博物館・美術館利用についての満足度・要望等を調査した。歴史博物館では韓国、中国、台湾、アメリカからの観光客が多く、東洋陶磁美術館では中国、フランス、韓国、アメリカからの来訪者が多かったが、両館とも展示に対する満足度は高く、それぞれ歴史、美術に興味があるという来館動機が数多くみられた。

2 年にわたり補助金を活用して、各館のホームページと館案内パンフレットを日本語・英

語・中国語・韓国語の4か国語で作成できたことは特筆すべき成果であり、外国人来館者に対して手厚い広報やサービスが行えるようになった。

### 3. 民間事業者との連携、民間ノウハウの活用

民間事業者との連携については、広報誌「Osaka Museums（大阪ミュージアムズ）」のリニューアルを市内の編集プロダクションと連携して実施した。また、博物館施設紹介映像の制作を市内の映像プロダクションと連携して行った。美術館では、障がい者特別鑑賞会を三菱商事株式会社と連携して、特別展「ディズニー・アート展」開催時の12月2日を行った。

また、大阪観光局などと連携して、博物館施設のホール等を貸し出してイベント、パーティー等を実施するユニークベニューに取り組み、10月に自然史博物館のポーチで「大阪MICEビジネス・アライアンス定例会」を、2月に美術館の1階ホールで「国際イノベーション会議 Hack Osaka2018 前夜祭」をそれぞれ実施した。

### 4. 教育普及に関する連携

#### (1) 小・中学校との連携

小中学校との連携については、平成25年度から継続して「授業に役立つミュージアム活用ガイド」を活用し、主に市内の校園長会や教育研究会との連携を深め、積極的に学校団体利用の促進をはかった。校外学習の決定時期である3月に合わせて、29年度末にも改訂版を増刷し、大阪府内の学校への情報提供の取り組みを進めた。

平成29年度の学校団体利用総数は、平成28年度と比較して減少となり、平成27年度とほぼ同数になった。減少の要因としては、学校利用の多い自然史博物館の利用数が特別展期間中にを中心に減少したことによるところが大きい。マスコミとの共催企画展が春秋の遠足時期にはなかったこともあるが、小中学校に向けての特別展の内容や魅力のアピール方法も検討していきたい。

平成29年度は、大阪府内の各教育委員会や大阪市教育センターとの連携事業として、「教員のための博物館の日」を歴史博物館（8月2日）、自然史博物館（8月4日）で実施し、今年度初めて東洋陶磁美術館（8月23日）でも開催して、合計175名の教員の参加を得た。学校向けの事業を紹介するほか、講演会や学芸員による解説ツアー、参加した教員たちによるワークショップなど、多様なプログラムを組み込んだ。各館が学校との連携を進めるためには継続性が必要であることから、平成30年度も「教員のための博物館の日」を歴史博物館、自然史博物館で開催する予定である。このほか、歴史博物館と自然史博物館では、大阪市教育センターと共に「大阪市教員研修」を実施している。

美術館と連携した取り組みとしては、特別展「ディズニー・アート展」の開催期間中にコレクション展で小学校鑑賞学習を実施した。

各館においては、中学・高校の職場体験・職業講話の受け入れも実施しており、歴史博物館では11校90人、自然史博物館では大阪府内の9校15人を受け入れた。

## (2) 高等学校・大学との連携

大学との連携については、引き続き大阪市立大学との包括連携協定に基づいて、学芸員養成課程の博物館学3講座（前期：博物館経営論・博物館資料保存論、後期：博物館展示論）への学芸員の出講をはじめ、博学連携講座「再論！真田丸と大坂の陣」（市立大学文化交流センター、11月、4回）、講演会「大阪平野のジオヒストリー」（歴史博物館、11月）、ミュージアム連続講座「海をめぐる歴史・文化・自然」（難波市民学習センター、1月～2月、3回）を共催し、学芸員の派遣や大学教員の招聘を行った。また、オンライン大学講座「JM0OC（ジェイムーク）」の映像制作について、資料画像の提供や学芸員の出演などの協力を行った。

包括連携協定の枠組みで共同企画したシンポジウムとして「秀吉の三都」（市立大学田中記念館、1月）を開催し、昨年につづく豊臣関連の企画として多数の参加者があった。

キャンパスメンバーズ制度は、公益財団法人大阪科学振興協会、大阪城パークマネジメント株式会社とともに3法人で運営する体制となって3年が経過した。加盟校は3大学1高校であった。新規会員校の開拓に取り組み、平成30年度から新たに1大学2高校が加盟（1大学が退会）することになり、3大学3高校に広がる。また同年度から、大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）が参加することになり、7館の利用が可能となってサービスが拡大する。

各館においては、大学の学芸員養成課程等の受け入れを実施しており、大阪歴史博物館では博物館実習に10大学50人、見学実習に4大学158人、自然史博物館では博物館実習17大学36名、美術館では博物館実習に21大学47名、インター研修に1大学院2名（中国書画）、東洋陶磁美術館では見学実習4大学117名を受け入れた。

## (3) 博物館・その他機関との連携

ミュージアム連続講座2017「海をめぐる歴史・文化・自然」（1月19日、26日、2月2日）を大阪市立難波市民学習センターで開催した。28年度に引き続き、市立大学・大阪教育文化振興財団と連携して3者での共催事業とした。海に関するテーマを設定し、歴史博物館、自然史博物館、美術館、東洋陶磁美術館、大阪文化財研究所、および市立大学から6名の講師が講演し、多様な視点からの話題が好評を得た。

歴史博物館では、同志社女子大学と共に開催した講座「京の都と難波宮－歴史と文化の重層性－」や、文化財研究所と共同で行った「7月28日は難波の日」講演会など、連携事業に取り組んだ。

自然史博物館では、特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」のミニ展示を、市立図書館と連携し、市立中央図書館をはじめとする市内各図書館12カ所（4月2日～10月18日）を巡回開催し、府立中央図書館（4月11日～5月7日）でも実施した。市立中央図書館では、6月10日に学芸員による「瀬戸内海で暮らす鳥、カメ、イルカ」も実施した。また認定NPO大阪自然史センターとの連携により、博物館事業の充実にも努めた。

美術館では、うえまちコンサート「美術館で日本叙情歌を」をNPO法人まち・すまいづくりと共に開催して10月1日に実施した。

東洋陶磁美術館では、大阪市中央公会堂・大阪府立中之島図書館・国立国際美術館、大阪国際会議場等と連携して、水都大阪・中之島まつり・光のルネサンスなど中之島地域の活性化イベントに協力した。

文化財研究所では、市民団体と協働して「なにわの宮リレーウォーク」第7弾を開催した。また、平野区役所・同区の市民団体とで実行委員会を組織し第15回「古代市」を実施し、中央区民祭では難波宮調査事務所の展示室公開と展示解説を行った。

## 5. 点検評価

平成26年度に、平成24年度の総合評価後の各館・研究所における措置状況を報告し、改めて外部評価委員より各館・研究所における現状と今後について多岐にわたる指摘や助言を受けた。平成28年度は、平成26年度評価の指摘事項に対する平成26~28年度3か年の措置状況をまとめた準備作業に着手し、大阪市が策定した「ミュージアムビジョン」や「博物館施設の地方独立行政法人化に向けた基本プラン（案）」を視野に入れながら、平成29年度には外部評価委員への説明、および学芸ワーキングによる課題整理を行い、外部評価への準備に取り組んだ。

## 6. 外部資金の獲得

研究活動を推進するうえで代表的な外部資金である科学技術費については、協会全体で44件が採択され、39,455,000円の助成を受けた。主な研究課題には、「トレハロース法による海底遺跡出土文化財の保存処理研究」「渡来文化の故地についての基礎的研究」「博物館をコアとした外来生物の市民調査、その生物多様性理解の促進効果の評価」「中国の王朝交替期における絵画動向をめぐって」「近代陶芸家の創作思想の系譜」などがある。平成30年度についても、引き続き申請を行っている。また、他の外部資金の獲得にも努め、展覧会や調査研究の充実をはかっている。

文化庁補助金では、平成28年度につづき「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」について、大阪歴史博物館を中心館として、協会が運営する各館に加え、新美術館建設準備室、科学館、大阪観光局、大阪国際交流センターを加えた実行委員会体制で「国際発信と多言語化事業」を実施した。平成30年度に向けては、新たに「地域と共に働く美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に対して応募を行った。事業名は「ミュージアムと地域を活性化させる魅力発信事業」とし、申請額は28,346,000円で、平成30年6月下旬（予定）に採否が決定される。

### 3 大阪文化財研究所事業

平成29年度のおもな発掘調査として、大阪府営上町住宅敷地内の難波宮跡、梅田北再開発にかかる大深町遺跡があり、成果を新聞等で公表した。報告書は『難波宮址の研究 第二十一』を始めとする合計6冊を刊行した。保存科学ではモンゴルからの技術指導や研修依頼を受ける等引き続き国内外から評価を得た。これらの成果を大阪歴史博物館や市民団体との連携による教育普及事業で活用し、大阪の歴史と文化財の周知を図った。

一方で平成26・27年度に大きく減少した大阪市域における文化財調査の事業量は昨年度に続いて回復傾向であったため、年度後半から非常勤嘱託職員を採用して対応するとともに、これまでの人材派遣職員減や事務所移転等による経費削減効果もあって、収支状況は安定している。

また、このような事業量に対応するため、東日本大震災復興支援で出向していた学芸員を12月から帰阪させた。

#### 1. 埋蔵文化財の調査及び報告書作成等

(1) 文化財調査受託事業（〔 〕は昨年度、個別の事業は一覧表参照）

平成29年度の発掘調査は契約件数118 [87] 件、調査面積約17,435 [16,022.5] m<sup>2</sup>、受託額281,845,000 [328,803,630] 円（税抜）であった。前年比で受託件数は1.3倍、面積は1.1倍、金額は0.85倍であった。発掘調査に報告書作成の49,108,400 [3,454,000] 円を合わせた金額は3億3,100万円弱 [3億3,200万円強] で、前年比でほぼ同額であった。委託元の内訳は、国関係9.3 [37.71] %、大阪府10.4 [0] %、大阪市29.9 [22.26] %、民間50.4 [40.03] %であった。

	発掘調査受託事業				報告書作成受託事業			合計	
	件数	面積	受託額（税抜）	件数	受託額（税抜）				
国関係	1	0	30,791,000	10.9%	1	※	-	30,791,000	9.3%
大阪府	2	706	34,455,000	12.2%	0	0	0.0%	34,455,000	10.4%
大阪市	1	940	49,717,000	17.7%	5	49,108,400	100.0%	98,825,400	29.9%
民間	114	15,788.75	166,882,000	59.2%	0	0	0.0%	166,882,000	50.4%
合計	118	17,434.75	281,845,000	100.0%	6	49,108,400	100.0%	330,953,400	100.0%

※民間事業1件（YM18-1）は調査着手がH30年度のため、面積・受託額をH30年度事業報告に記載する予定

発掘調査では大阪府営住宅外構整備（難波宮跡NW17-1）・（仮称）新美術館建設工事（中之島蔵屋敷跡NX17-2）に伴う公共事業2件があり、民間事業も件数・金額ともに増加している。

発掘調査の受託額は前年度に比べると減少したが、報告書作成事業が多く、全体の受託額はほぼ同額であった。

118件の契約のうち本年度に発掘調査したのは82件で、そのうち大規模開発等に対応した市教育委員会による試掘結果を受けた発掘調査は19 [22] 件で、新発見の遺跡として市域における遺跡範囲の拡大につながった。

報告書は6冊を刊行した。昨年度編集作業まで終えていた難波宮東方官衙地域の史跡整備調査を対象とした『難波宮址の研究第二十一』、大阪医療センター敷地内の後期難波宮の曹司跡等を報告した『難波宮址の研究第二十二』、昨年度の市営住宅建替に伴う調査を報告した『喜連西遺跡発掘調査報告Ⅳ』・『長橋遺跡発掘調査報告Ⅱ』に加えて、市道建設に伴う調査を報告した『細工谷遺跡発掘調査報告Ⅲ』、特別史跡大坂城跡の石垣整備事業による調査を報告した『大坂城跡XVIII』がある。後2冊は過年度の未報告調査をまとめたものである。

一方で、報告書作成が未契約のままである市営住宅建替に伴う発掘調査22件については事業がなかった。平成27年度（『加美遺跡発掘調査報告VII』）と同様に、今後も報告書を刊行して成果を公表することが必要である。

おもな調査成果には次のものがある。

古代以前では、天王寺区空清町の宰相山遺跡（SS7-1）で市内では稀少な縄文時代早期末（茅山下層式ないし粕畠式）の深鉢土器片や古墳時代の土馬が出土した。森小路遺跡（MS17-1）では弥生時代中期の竪穴建物の可能性のある遺構や土器・磨製石器等が見つかった。また難波宮跡（NW17-1）では谷に造られた奈良時代の石組暗渠が見つかり、ホームページや新聞等で公表された（平成29年11月17日）。後期難波宮の東部における基幹的な排水路と考えられ、成果報告書を予定している。

中世では、北区西天満3丁目の天神橋遺跡で11～13世紀の遺物多数が出土し、大川北岸における渡辺津に係るものと推測されている。また、住吉区墨江3丁目の住吉行宮跡で昨年度に続き16世紀前半に廃絶した正東西溝や柱穴等が見つかり（SN17-1）、住吉大社社家の津守氏居館との関係が注目される。

近世では重要な地域の調査が多々行われた。（仮称）新美術館建設用地である北区中之島四丁目の中之島蔵屋敷跡（NX17-2）では、1995～2001年の広島藩大坂蔵屋敷跡の調査を承け、より古い江戸時代前半の礎石建物や蔵跡等を発見した。調査は今後も継続される予定である。中央区久太郎町四丁目の大坂城下町跡（0J17-5）では、真宗大谷派難波別院（南御堂）敷地内で創建時の豊臣後期に遡る建物跡が見つかり、その後17世紀中葉～18世紀後葉にかけて建物の建立と廃絶、庭園化とその埋め立てなど、一部であるが寺域の変遷が明らかとなった。寺に残る記録とも対照させて寺院史の解明に大きな成果をもたらすものとなろう。同じ大坂城下町跡の今橋地域は豊臣期城下町の成立や徳川期の賑わいを明らかにする重要地域であり、町割りや敷地内的重要施設の変遷、稀少な輸入陶磁器等の様々な発見があった（0J17-1・8・14）。また、昨年度から続く北区大深町遺跡（0C16-1）では徳川・明治期の梅田墓を調査して、さまざまな形態で土葬された200体以上の人骨、火葬で生じた大量の骨灰（残灰）を含んだ大型の土壙（「骨灰土壙」）や廃棄された墓石・骨壺等多数を発見し、ホームページや新聞等で公表された（平成29年10月18日）。報告書は平成30年6月に刊行する予定である。

これらの成果は報告書のほか順次『葦火』でも一般に紹介している。

## (2) 保存処理・分析事業

今年度の受託件数・受託額は昨年度よりも増加した。大阪府下では藤井寺市の1件、八尾市の1件、奈良県下では田原本町の2件、和歌山県下では和歌山市の2件、そのほか島根県教育庁・松江市・今治市・公益財団法人高知県文化財団・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター・総社市等、合計16組織30 [24] 件の事業を受託した。以上の保存処理事業の受託額は約1,882万 [約1,595万] 円（税抜）である。

## (3) 文化財関連施設の管理事業

大阪市立埋蔵文化財収蔵倉庫（平野区）・東淀川調査事務所（東淀川区）・西淀川収蔵倉庫（西淀川区）・鶴浜収蔵庫（大正区）で恒常的な出土遺物の管理を行い、1,368 [1,060] 箱の遺物収納コンテナの移動や、整理作業による収蔵遺物の系統的な管理を行った。

## 2. 保存科学技術の開発と文化財等資料への応用

大阪市内遺跡では、報告書に掲載した細工谷遺跡（SD05-1）の古代木樋、難波宮跡・大坂城跡（NW15-1）の近代軍事関連文書資料や小銃等をはじめとする50点以上の出土遺物を保存処理した。さらに、大阪歴史博物館の特別展「大相撲と日本刀展」に出展するため、長原213号墳出土の古墳時代鉄刀も保存処理した。

科学研究費助成を得て研究を進めているトレハロースを用いた木製文化財の保存技術について、その成果の発表や技術移転、技術開発を積極的に行った。日本文化財科学会（東北芸術工科大学）での研究発表や、トレハロース含浸処理法研究会（高知県埋蔵文化財センター）を開催した。海外ではモンゴル国アイリギーン・ゴゾゴル遺跡での発掘調査指導、同国文化遺産センターでの出土遺物保存処理技術の移転を行った。また、同国カラコルム博物館からの依頼を受けて同館保存科学室長に2週間にわたる研修を実施した。技術開発では長崎県松浦市立鷹島埋蔵文化財センターに設置した太陽熱集熱含浸処理装置の稼動実験を進め、含浸槽設定温度50度程度までならば太陽熱のみで保存処理が可能である結果となり、自然エネルギーの活用に道を開いた。

## 3. 文化財に関する研究

科学研究費助成事業の基盤研究(B)補助金1件・(C)基金3件の研究代表と、基盤研究(A)補助金・(B)補助金の研究分担者各1件を継続した（他機関への配分を含む直接経費交付額：9,143,713円、うち前年度繰越金943,713円）。研究成果は、次のものをはじめとする講演会の開催や海外での学会発表等で公開した。

・平成30年12月2日：南代表『日本列島における初期都市化の比較』（「古墳時代における都市化の実証的比較研究」研究講演会②）

・平成29年10月14・15日：絹川代表『先史時代における二上山サヌカイトの利用と原産地の開発』（「二上山産サヌカイトの採掘・供給活動と石器生産システムの変動に関する通史的研究」二上山サヌカイト研究セミナー①）

・平成29年4月19～21日：岡村代表「考古学におけるプロフェッショナリズムと倫理」セッション参加における事例発表（「日欧比較研究による「持続可能な考古学」の構築と国際発信」イギリス「考古学者協会（CiFA）」年次総会・研究集会）

そのほか『研究紀要』第19号（全国約300機関に配布）を刊行して、各自の研究成果の公開に努めた。

#### 4. 教育・普及事業

昨年度の学芸員退職減と事業量の回復により、本年度も教育・普及事業に必要な人員を充てることは難しかったが、従来の事業の継続に可能な限り努めた。

##### (1) 展示等をはじめとする資料活用

大阪歴史博物館と共に開催の特集展示「新発見！なにわの考古学2017」（8月30日～11月13日）を開催した。「なにわの考古学2017」展では、平成28年度の発掘成果から古墳時代初頭の古墳副葬品（喜連西遺跡）、古代の八稜鏡（長原遺跡）、軒丸瓦（大坂城下町跡・四天王寺旧境内遺跡）、平安時代の銭貨（大坂城下町跡）、中世茶道具等陶磁器（住吉行宮跡）、近世陶磁器・スイギュウ角（大坂城下町跡）、鋳造関連遺物（上本町遺跡）等約300点を公開した。また、特別展「渡来人いづこより」（4月26日～6月12日）では約130点の出土遺物が展示された。

このほか、「古代のクラフト展」（4月29日～5月6日）を大阪市立クラフトパークで開催して長原遺跡の古墳時代朝鮮半島系資料を展示した。また、市内各地の公共・民間施設に設置された「街角ミュージアム」は北区役所から撤収したため、34箇所2,077点の出土遺物展示となつた。

さらに、全国の博物館・美術館等の申請に対応した出土品は18 [11] 件98 [281] 点、出版目的等で提供した写真・図面は57 [72] 件164 [405] 点、調査研究への対応は9 [12] 件1,207 [1,192] 点であった。

##### (2) 講座等による教育普及や人材育成

発掘調査の現地説明会は開催されなかった。講座・講演会では「金曜歴史講座（4月28日・5月12日・5月19日：計377人）」および「大阪の歴史を掘る講演会（9月23日：141人）」（「なにわの考古学2017」展関連行事）、「7月28日は難波の日講演会（7月28日：129人）」を大阪歴史博物館と共に開催した。ほかに、大阪歴史学会主催で「難波宮下層遺跡と上町台地北端部の開発（現地見学会・検討会 5月14日：計200人）」等を開催した。

また、「はびきの市民大学」や「平野住民大学講座（平野区画整理記念会館）」等他団体が主催する講座の企画や講師派遣を行ったほか、考古学や文化財の研修・教育課程の講師として調査機関、大学等に学芸員を派遣した。国外では中華民国宜蘭県立蘭陽博物館で行われた『現代の博物館における考古展示と教育』シンポジウム（9月13日～16日）に招聘され、「街角ミュージアム」を紹介し、大阪市における草の根的な発掘成果の公開方法として注目された。

### (3) 地域と連携したイベント等の共催・出張展示

本年度も市民団体に協力して平成23年度から継続している「なにわの宮リレーウォーク第7弾」で文化財探訪イベントを行った。また、平野区役所および同区の市民団体とともに実行委員会を組織する第15回「古代市」で「古代のクラフト展」の展示解説を、中央区民祭では難波宮調査事務所の展示室公開と展示解説を行った。

### (4) 体験活動事業

本年度も史跡整備のための難波宮跡の発掘調査が実施されなかつたため、体験発掘は行っていない。史跡難波宮跡や難波宮調査事務所の資料展示室見学で54 [29] 件330 [164] 人に対応した。そのうち学校を対象としたものは府下高校生徒等7 [6] 件117 [131] 人であった。

### (5) 情報発信

発掘調査や出土品に係る新聞報道は3回で、文化財情報誌『葦火』は4号（185～188号）各700部を刊行した。定期購読者は106 [113] 人であった。ホームページの接続は23,802 [26,766] 件（累計752,459件）であった。またSNS活用の一環としてFaceBookに各種イベントや刊行物の案内を掲載した。

そのほか『難波宮 都市に埋もれた幻の古代宮殿』（昨年度「大阪市博物館施設の国際発信強化実行委員会」に参加して刊行した外国語版遺跡案内パンフレットの日本語版）を増刷し、大阪歴史博物館の協力を得て配布している。

### (6) 関連資料の収集・管理

交換・贈呈による発掘調査報告書・普及図書の受け入れ作業を進め、1,767 [558] 冊を追加して登録図書は90,449 [88,682] 冊となった。

### (7) 他団体との連携

9年目となつた全国埋蔵文化財法人連絡協議会の近畿ブロック（13団体）による「関西考古学の日2017」に参画し、講演会「近世城郭と城下町の風景（9月30日：132人）」（会場：和歌山市）の開催、リーフレットによる共同広報、スタンプラリー等を実施して各団体の遺跡情報や教育普及事業の周知に努めた。

## 5. 博物館・美術館との連携

発掘調査の出土品と研究成果を活用し、特に大阪歴史博物館との特別展・特集展示や関連行事の開催で連携した。そのほか「ミュージアム連続講座2017」等の事業でも連携した。

## 6. 東日本大震災復興支援等学芸員出向

岩手県の要請に応え、東日本大震災復興支援の埋蔵文化財調査のため担当者1名を（公財）岩手県文化振興事業団へ派遣し（4月～11月）、地域の貴重な文化財の保存と活用に寄与した。

## 4 大阪歴史博物館管理運営事業

平成 29 年度は当館蔵品「朝鮮通信使関連資料」(辛基秀コレクション)のうち 11 件 14 点がユネスコ「世界の記憶」(世界記憶遺産)に登録された。折しも特別企画展で公開中の登録であったので、多くの取材を受けるとともに広くその意義を発信することができた。

そのほか展示としては近年人気の高い大相撲と刀剣をコラボレーションさせた企画や刀装具の巡回展、自主企画の考古展という多彩な特別展を実施したほか、常設展示では多くの展示替えをおこない、新しい展示の提供に心がけた。

展示観覧者・利用者数は 441,870 名 [530,352 名]（以下、〔 〕は昨年度）で、昨年度比 83.3% となった。インバウンドの増加は平成 29 年度も続き、常設展示入館者全体に占める外国人の数は概数で 111,700 人（割合は 36.0% [31.5%]）、有料入館者における割合は 49.5% [43.8%] と着実に増えていることから、平成 28 年度に引き続き文化庁の多言語化による国際発信の補助金を受け、展示概説映像の多言語版解説パンフ作成や英語テロップの追加、館内活動ボランティアの外国語・異文化理解研修を実施し、インバウンド向けサービスの充実に努めた。

### 1. 資料の収集、保管事業

平成 29 年度は寄贈資料に関しては、資料収集方針にもとづき、「印判手の皿」「藪明山関係資料」「木津家伝来平瀬家文書」「大阪新歌舞伎座関係建築資料」など、歴史資料 3,027 点、美術資料 1,409 点、民俗資料 5 点、芸能資料 47 点、建築資料 231 点、合計 4,719 点 [2,078 点] を整理・燻蒸し、収藏した。この結果、当館で保管する館蔵品は 143,314 点 [138,595 点] となつた。また、新たに 135 点の寄託資料を受け入れ 13 点を返却した。その結果、寄託資料の総点数は 17,754 点 [17,632 点] となつた。このほか館蔵資料 95 点に修復を施した。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示

常設展示「都市おおさかの歩み」では、季節や時期、話題性を考慮して館蔵品・寄託品を活用した実物資料の展示更新に積極的に取り組み、年間 56 回の展示替えを実施した。古代フロアでは特別展「大相撲と日本刀」の会期に合わせて古代の刀子と大刀を展示したほか、近世フロアでは雛祭りの時期に雛人形の展示を、近現代フロアでは特別展「鑿の華」の会期に合わせて刀装具の展示を実施した。

本年度の常設展の入場者は前年度比 8.0% 減の 309,846 人 [336,736 人] となつた。展示解説は、土曜・日曜・祝祭日に実施し、1,142 人 [1,387 人] の参加を得た。

#### (2) 特集展示

特集展示室では、大阪市内の最新の発掘成果を紹介した「新発見！なにわの考古学 2017」や、「新収品お披露目展」といった定番の企画のほか、重要文化財指定を記念した「なにわの

町人天文学者・間重富」、大阪開港 150 年に連動した「大阪町めぐり 安治川と天保山」を開催した。このほか、最新の研究成果をもとにした「鴻池研究の現在」、「ほのぼの俳画 生田南水」のあわせて 6 本の特集展示を開催し、常設展示とは違う角度から大阪の歴史・文化の発信に努めた。

### (3) 特別展示・特別企画展

平成 29 年度は、特別展として学芸員の自主企画 1 本、学芸員が企画にも加わる巡回展 2 本を開催し、特別企画展として自主企画の展示 1 本を開催した。

#### ◎特別展「渡来人いざこより」

(平成 29 年 4 月 26 日（水）～6 月 12 日（月） 開催日数 43 日間)

近畿地方やその周辺地域で出土した主に古墳時代の朝鮮半島系資料を展示した。朝鮮半島からの渡来文化、渡来人の「出身地」にスポットを当て、当時の具体的な交流像をビジュアルに描き、渡来文化の多様性、日本列島各地での渡来文化受容の独自性を観覧者に伝えた。

#### ◎特別展「大相撲と日本刀」

(平成 29 年 7 月 8 日（土）～平成 29 年 8 月 28 日（月） 開催日数 46 日間 巡回展)

歴代の名横綱が所持した太刀など、大相撲にゆかりのある日本刀にスポットを当てながら、これまで紹介される機会の少なかった、相撲における刀剣の意味や、大阪ゆかりの相撲集団「大阪相撲」に着目し、相撲文化の新たな一面を紹介し注目された。

#### ◎特別企画展「世界に誇る大阪の遺産 一文楽と朝鮮通信使」

(平成 29 年 9 月 30 日（土）～11 月 26 日（日） 開催日数 50 日間)

大阪にゆかりの深い文化財のなかから文楽、朝鮮通信使という二つの文化遺産について、館蔵品を通じて紹介した。文楽は近年の寄贈品を中心に展示し、朝鮮通信使は辛基秀コレクションを中心に展示したが、会期中にユネスコ「世界の記憶」に登録され、注目を集めた。

#### ◎特別展「鑿の華—光村コレクションの刀装具—」

(平成 30 年 1 月 27 日（土）～3 月 18 日（日） 開催日数 44 日間 巡回展)

大阪生まれの実業家、光村利藻が収集した刀装具のコレクションを、根津美術館所蔵品を中心に刀剣や絵画作品を交えて展示し、光村利藻の足跡と彼が魅せられた美の世界を紹介した。

平成 29 年度特別展の観覧者は合計 58,770 人（108,771 人）で、昨年度比で約 54% となった。

## 3. 調査・研究事業

難波宮と大阪学の研究を 2 本柱とし、「近年の発掘成果を基にした難波宮造営前後の都市的様相に関する研究」、「鴻池家旧蔵名物裂についての研究」、「中村順平の設計活動と建築教育に関する研究」、の 3 課題の共同研究を実施した。また基礎研究としては、「琉球使節への川御座船提供に関する基礎研究」、「刀装具の展示手法の研究」、「大阪と江戸・東京との都市比較史研究」の 3 課題を実施した。研究成果については「研究紀要」で発表するとともに、「なにわ歴博講座」

などをとおして市民に還元した。また前年度に終了した「中村順平のスケッチブックと図面類の画題・作画時期解明に関する研究」の成果を『共同研究報告書 12』として刊行した。

外部資金による研究では、科学研究費補助金 280 万円〔676 万円〕を獲得し、基盤研究(B)1 本、基盤研究(C)3 本、挑戦的萌芽研究1 本を行った。

#### 4. 教育・普及事業、学習支援

教育普及事業は、市民の歴史学習を支援するためのものとして、学芸員による「なにわ歴博講座」のほか、7世紀の史料を読む漢文講座、館長講演会、館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」、「考古学入門講座「渡来人」ゆかりの地を歩く」、大阪町あるき「安治川・天保山」、「なにわ歴博寄席 2018」など多彩なメニューを実施し、時宜を得た話題や最新の研究状況を取りあげることで市民の学習意欲に応えた。また各特別展や特集展示においても、関連の内容でトークイベント・講演会・展示解説・伝統芸能イベントなど多くの行事やイベントを開催した。これらの事業は合計 70 回〔95 回〕を実施し、総計 7,636 人〔8,770 人〕の参加者があった。

小・中学生を対象とした「わくわく子ども教室」では、常設展 8 階で毎月第 2 土曜におこなった「和同開珎の拓本でしおりをつくろう」(上半期)、「むかしの瓦の拓本体験」(下半期)に年間 298 人〔380 人〕の参加者があり、4 日間開催した「考古学者になってみよう」には、延べ 27 人〔17 人〕の参加があった。季節に合わせた企画である夏の「綿くり・糸つむぎ体験」には 1 日間で 77 人〔64 人〕、正月の「凧づくりと凧あげ」には 31 人〔22 人〕の参加者を得た。毎月 2 回、1 階のエントランスでおこなう「手作りおもちゃで遊ぼう」はおもちゃ作りサポーターによる協力のもと 23 回実施し、1,560 人〔1,691 人〕の参加者があった。また、今年度で 2 回目となった夏休みクラフト教室「近代建築ダンボールクラフト体験」には 2 日間で 20 人〔25 人〕が参加した。

ボランティア事業は、市民参加型博物館をめざす事業の一環として開館時から導入しているもので、今年度は 197 人が登録し、活動は、難波宮の遺跡をめぐるガイドツアー、常設展示での子どもスタンプラリー、古代衣装・江戸時代の両替商体験・明治の双六遊びなど 6 種のハンズオン、8 階の「歴史を掘る」コーナーでの考古学の体験学習を実施した。さらに 5 月と 11 月の連休に開催した「iPad で楽しむ難波宮遺跡探訪」「石組水路の一般公開」への協力もおこなった。ボランティアの活動は休館日と研修日を除き年間 308 日で、延べ 4,349 人〔4,807 人〕が活動した。なお、ボランティア活動の充実と来館者対応の向上を目的に、5 月から 3 月にかけて研修会、特別展関連の見学会、懇談会などを年間 5 回実施した。このほか、文化庁補助事業の一環として、異文化理解の研修を 2 回、語学研修を 9 回行った。また、29 年度活動のボランティアの任期は平成 30 年 3 月末までであったため、次年度以降の継続意思を確認し、177 人を 30 年度の登録者とした。同時に新規ボランティアの募集を行い、47 名を登録予定者とした。

学習支援関連では、司書・学芸員が常駐する 2 階の学習情報センター「なにわ歴史塾」で、自由に閲覧できる映像ソフト約 100 本、図書約 6,000 冊、「昔の大阪」写真ライブラリー画像約 7,000 点を中心に、館内外から検索できる書庫内図書約 15 万冊も活用しながら、大阪の歴

史や文化に関する市民の学習相談に応じた。さらに季節・時宜に応じた特集図書コーナーを年間 6 回設置・配架し、図書利用の推進に取り組んだ。

また、区役所や生涯学習施設等からの講師依頼については、可能な限り当館を会場としながらその要請に応えた。

## 5. 学校・市民等との連携

学校連携としては、教員研修、中学生・高校生等の職場体験・職業講話、小学校高学年の考古学体験のほか、大学生からの博物館実習の受入れを行った。

教員等の研修では、大阪市立南大江小学校新規採用教諭の社会体験研修（2 名）、および大阪府南河内郡太子町立中学校研修（26 名）を実施した。なお、例年大阪市教育センターとの共催で行ってきた「大阪市教員研修」は、台風のため中止となった。中・高校生等の職場体験・職業講話は、11 校 90 人超〔14 校 105 人〕を受け入れたほか、修学旅行等で当館を訪れる小中学生グループからの学習相談にも応じた。また、大阪文化財研究所と連携して「考古学体験教室」を開催し、11 月に市内の小学校 12 校、745 人の児童を受け入れた。大学生の博物館実習は 8 月後半から 9 月初めに延べ 10 日間で 10 大学 50 人〔12 大学 41 人〕を、博物館見学実習については 158 人〔210 人〕を受け入れた。なお小中学校による団体利用は、小学校 410 校〔398 校〕、中学校 174 校〔176 校〕、そのうち大阪市立の小学校 210 校〔215 校〕、中学校 62 校〔59 校〕である。小学校は全体では増加したものの市内の学校はわずかに減った。中学校は微減となった。

市民や他団体との連携では、大阪歴史学会と共に現地見学検討会「難波宮下層遺跡と上町台地北端部の開発」を開催したほか、公益財団法人土木学会関西支部との共催で FCC フォーラム「あしたの城～城・石垣をつくる人、まもる技術／大坂城と熊本城～」、上方舞の模茂都流型付研究会との共催で「第一回研究発表会」を開催した。

## 6. 情報発信、広報宣伝

情報発信、広報宣伝については館事業を広く周知し、館利用者の増を目的として積極的に取り組んだ。館の存在の周知を徹底する目的から、地下鉄車内における案内放送を通年で実施するとともに、英文年間行事予定表の作成と英語による特別展概要・主要作品紹介をホームページに掲載することで、外国人向けの情報提供をおこなった。インターネット関係では、ホームページに展示・普及事業にかかる案内をすべて掲載し、年間で 448,981 件〔857,867 件〕、1 日平均 1,230 件のアクセスがあり、飛躍的に増加した平成 28 年度比では約 52.3% と大きく下回ったが、平成 27 年度以前と比べると高い水準にある。また「携帯サイト」の随時更新、ツイッター・「なにわ歴史塾ブログ」による新着情報の発信を積極的に実施した。ツイッターは平成 29 年度末でフォロワー数が 3,586、年間ツイート数は 1,127 件であった。なにわ歴博カレンダー（4 回各 2 万部）や行事ごとの案内チラシなどの紙媒体の発行も継続し、また常設展示、特別展の廣告を旅行雑誌等の情報誌に掲載し、多様な層への情報浸透に引き続き取り組んだ。

## 7. 来館者サービスの向上

館内のレストランとの連携をはかり特別展ごとに観覧者への入館割引または飲食割引のサービスを実施している。大阪城天守閣とのセット入場券(常設のみ)は、平成22年度の発売開始から8年目を迎えたが、毎年売上枚数が増加しており両館で平成29年度48,464枚、前年度比117.5%（累計234,252枚）という販売実績となっている。セット入場券の購入者に特典として配布している大阪城公園周辺マップ（日・英・中簡・中繁・韓の5言語）を継続発行し、地域連携のネットワークを使った広告掲載の募集も行った。

また、ゴールデンウィーク中の5月2日、お盆期間中の8月15日に、来館者の利用促進のため臨時開館を行った。

## 8. 施設の維持管理

建物設備の維持保全のため空調をはじめとする電気、機械設備などの機器・装置の日常点検のほか、定期メンテナンス、法定点検などを実施し良好な施設設備の維持に努めた。

また経年劣化等による機器の不具合に対応し、電話交換機蓄電池及び共有部真空ポンプの更新を実施するとともに空調関係機器の整備・改修、部品交換などを行った。展示場関係では、10階展示場のスライディングウォールの改修を28年度に引き続き実施、さらに、展示ケース等の照明改修も実施した。また、共有部地下駐車場システムの改修及び地下歴博駐車場シャッターの一部改修、講堂の音響・映像システムの改修、なにわ歴史塾の入退室システムの更新、さらに、レストラン関係では、冷蔵庫、湯沸器の更新等を実施した。

## 9. 友の会 その他独自事業

友の会は、幹事会をはじめとした会員による自主運営に移行して4年目に入った。事業としては講座「道鏡と称徳女帝」、見学会「明日香の古墳を巡る」「幕末・西郷隆盛ゆかりの地を巡る」など多彩な企画が計8回開催され、258人の参加者があった。当館は、事業の企画立案や講師の派遣などをとおして友の会の活動支援を行った。平成29年度の会員数は243名（家族会員を含む）であった。

その他、独自の事業として、ジュンク堂書店大阪本店で、展示図録等の常備販売を実施した。

## 10. 文化庁補助金事業（多言語化の取り組み）

平成29年度 文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」において、大阪市博物館施設の国際発信強化実行委員会に中核館として参画し、当館においては補助金で下記の事業に取り組み、情報発信、来館者サービスにおける多言語化を実施した。

- ①総合ガイダンスマップの多言語化（映像に英語テロップを追加）
- ②総合ガイダンスマップをもとにした、多言語の解説パンフレット作成（日・英・中（簡体字・繁体字）・韓の5言語）
- ③ボランティア向けの外国語研修（英・中・韓の3ヶ国語）、および異文化理解研修

④ハンズオン事業案内板の多言語化（上記5ヶ国語）

⑤スタンプラリーシートの多言語化の充実（従来の日・英に加えて中・韓を追加）

③のうち異文化理解研修は、海外からの来館者がどのような文化・宗教的背景を持っており、対応するに当たってどのような点を配慮すべきかを理解することを目的とする試みである。こうした企画自体がユニークなものであり、参加したボランティアからも好評を得ており、今後の活動に大いに役立つものと期待できる。また、語学研修を契機としてボランティアの学習意欲が高まり、より積極的に来館者とのコミュニケーションが取られるようになっている。さらに、昨年度の同事業で作成した多言語のパンフレットは、海外からの来館者の動向を把握する上で、より詳しい情報を得るために役立っている。

また8~9月に総務部が当館で実施した外国人観光客動向調査および実数調査により、外国人来館者の実像がより明確となった。

## 5 大阪市立自然史博物館管理運営事業

平成 29 年度は特別展を 3 回開催したが、それぞれに特徴ある展覧会となった。「石は地球のワンダー」展は、実物資料の魅力を前面に押し出した展示手法をとった。「瀬戸内海の自然を楽しむ」は 5 年間取り組んだ科研費基盤研究 A の研究実践と前年度実施した巡回展の成果の総まとめであった。「メガ恐竜 2017」は初めて博物館外を会場とした特別展開催で、共催者との広報の相乗効果もあって 14 万人を超える来館者を迎えた。

### 1. 資料の収集、保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じて海外からも収集した。収集した標本は低温燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、展示・研究活動に活用している。この数年間、新規資料は主として寄贈によって増加している。29 年度に寄贈を受けた主なコレクションは次の通りである。

哺乳動物骨格及び小型哺乳動物化石（河村コレクション、現生骨格 1,153 点、化石一式）、日本・東南アジアのカニ類（和田コレクション、3400 点）、アジアゾウなどの飼育哺乳類・鳥類（天王寺動物園、13 点）、国内外産ハチ目昆虫（藤江コレクション、11,328 点）、水生植物（約 20,000 点、角野コレクション）。

平成 29 年度末の総資料数は 171 万 9,202 点（昨年度末比 35,075 点の増加）。

なお、二次資料としての図書資料については、単行本の登録数は 2,196 部で、平成 29 年度末の総計は 20,158 部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物は 4,411 冊増で平成 29 年度末現在の累計 196,746 冊である。

### 2. 展示事業

平成 29 年度の入館者数は、常設展 193,431 人（うち有料 73,926 人）、特別展 201,035 人（うち有料 127,283 人）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、394,466 人であった。常設展入館者は前年度比 79.1% で 51,156 人減（有料入館者は 40,542 人減）、一方で特別展を合わせた総入館者数は前年度比 104.3% で 16,396 人増となった。

常設展の入館者減については、新聞社等と共に巡回展会場が館外（ATC ホール）となつたために特別展セット券としての有料入館者数の減少で、予想の範囲内であるが、有料入館者数の減少数（40,542 人）が 28 年度の特別展有料入館者数（51,278 人）より少なく、その差分約 10,000 人の常設展有料入館者数がこの 1 年間のインバウンドの増加と見積もられる。有料入館者のうち、インバウンド効果は 20,000～25,000 人と推定される。

小中学校の団体見学は全体で 406 校（26 年度 417 校、27 年度 460 校、28 年度 470 校）、うち市内小学校 135 校、市内中学校は 43 校であった。中学校と市外の小学校の減少が見られる。

## (1) 常設展示

平成 29 年度には、2 月に実施された施設改修に伴う臨時休館期間を利用して、第 2 展示室の 2 コーナーの展示更新など、以下の修理・更新を行った。

### ・第 2 展示室の一部更新

「展示の魅力向上」予算により第 2 展示室の新生代の前半部分と古生代「三葉虫の海」の部分更新を実施した。これらの展示は昭和 61 年（1986 年）に展示更新を行って以来更新されなかつたため、最近の 30 年間の研究成果を盛り込むように努めた。

### ・多言語対応のために QR コードパネルの設置

平成 29 年度文化庁補助金事業により、多言語対応のために展示室の 49ヶ所に QR コードパネルを設置し、対応したスマートフォンで閲覧できるようにした。

### ・ザトウクジラ全身骨格（愛称ザットン）の吊り下げ

ザトウクジラ全身骨格（愛称ザットン）を、博物館本館前ポーチに吊り下げ展示した。全身骨格の下には、生きていた時の輪郭線を引いた。

### ・情報センター 地域自然誌展示室 水槽（生体展示）

生体展示に「外来生物」を加え、展示生物を全面的に更新するとともに、ろ過装置の更新を行った。

### ・常設展ケース内の LED 照明化

博物館本館のケース内の照明を、従来の蛍光灯照明から LED 照明に更新した。

また引き続き満足度向上をめざして「ジオラボ」・「子どもワークショップ」・「ミニワークショップ（たんけんクイズ）」等の館内行事を実施し、来館者サービスに努めた。

## (2) 特別展

### ①特別展「石は地球のワンダー～鉱物と化石に魅せられた 2 人のコレクション～」

＜会期＞ 平成 29 年 4 月 22 日（土）～6 月 4 日（日） 39 日間

この特別展では、地球が生み出した不思議な石に魅了された二人のコレクターによる鉱物コレクションと化石コレクションを中心に石の魅力を紹介した。

あわせて、日本地質学会により選定された「47 都道府県の石（岩石・鉱物・化石）」を同時開催で展示した。日本列島を形作る、複雑で多様な地質を実感してもらえた。

なお特別展「石は地球のワンダー」は大阪市立科学館との共催で、北川隆司鉱物コレクションのうち、約 40 点は大阪市立科学館で平成 29 年 3 月 14 日（火）～平成 29 年 6 月 4 日（日）に開催された企画展「石は地球のワンダー」において展示された。

入場者：16,770 名（うち有料 4,648 名、27.7%）、フリーパス大人 29 名。

講演会 1 回、ギャラリートーク 3 回開催。

### ②第 48 回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」

＜会期＞ 平成 29 年 7 月 15 日（土）～10 月 15 日（日） 81 日間

当館では平成 24 年度からの 5 年計画で、瀬戸内海沿岸の博物館・水族館等の機関と連携して市民参加の観察会や調査会等を行い、沿岸の自然史情報や標本資料を蓄積とともに、各地域で巡回展示を開催してきた。その集大成として位置づけて開催されたのが、本年度の特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」である。瀬戸内海は外海とは切り離された、全体としては波の穏やかな海であるが、そこには 700 を越える島々、海峡、複雑な海底地形があり、さらには潮流を生み出している。このような環境は瀬戸内海に豊かな海の恵みと高い生物多様性をもたらしており、沿岸にすむ人々は古くからその恩恵を受けて暮らしている。この特別展では、観察会・調査会の参加者が瀬戸内海で見つけてきた多様で魅力的な自然、そして恵みを紹介することをねらいとした。

一連の企画・調査は科研費（基盤研究 A）により行われたものである。また、本特別展の開催事業は船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」の支援を受けた。

#### ＜展示構成＞

1. 瀬戸内海の自然：瀬戸内海の地形的な成り立ちを紹介するとともに、瀬戸内海の特徴的な自然環境（砂浜、海岸林、干潟、アマモ場、磯、ガラモ場など）と、そこで見られる地質・動物・植物を紹介した。
2. 瀬戸内海の漁業：瀬戸内海の生態系サービスとして最も重要な漁業について取り上げた。現在主流の漁業だけでなく、過去に行われていた漁法についても取り上げた。
3. 消えた風景：児島湾の内湾干潟や漁撈、スナメリ漁、アビ漁、塩田、石風呂など、かつては普通に見られた瀬戸内海の景観や風物について紹介した。
4. 抱える問題と解決に向けて：自然海岸の減少、富栄養化と貧栄養化、外来生物、内湾の貧酸素、外来生物の増加等、高度経済成長期以降に瀬戸内海で起きた問題をトピックとして取り上げ、その解決の方策や、実際の取り組みについて紹介した。
5. 瀬戸内海を調べる：瀬戸内海で行われてきた自然科学調査について、江戸時代から現在までの歴史と成果について紹介した。

入場者：16,662 名（うち有料 5,250 名、31.5%）、フリーパス大人 39 名。

講演会など 8 回、ギャラリートーク 14 回、子どもワークショップは 16 日間開催。

#### ③特別展「メガ恐竜展 2017－巨大化の謎にせまる－」

（読売新聞大阪本社、テレビ大阪、ATC と実行委員会を組織し、ATC ホールで開催）

＜会期＞ 平成 29 年 7 月 25 日（火）～9 月 3 日（日） 41 日間

（※7 月 22 日～24 日は協賛社によるポンサードーとして招待者向け開催）

地球で生命が誕生してから 40 億年。地球上で誕生した様々な生物たちは、それぞれの時代、それぞれの環境の中で、生き残るために多様な進化を遂げてきた。本展ではの中でも、恐竜やクジラなど「巨大化」という戦略を選択した生き物たちを多数展示、その姿や進化のメカニズムなどを紹介した。組み上げた恐竜の全身骨格 18 体をはじめ、生態復元模型、ロボット、クジラやゾウなど他の化石の全身骨格もふくめて見応えのある展示と

なった。なお本展は、平成27年7月に東京会場（千葉市・幕張メッセ）で開催されたテーマ・展示標本を再構成した展示である。

#### ＜展示構成＞

1. 地球には巨大生物がくらしていた
2. 地球史上もっとも大きな陸上動物「竜脚類」
3. 巨大化した獣脚類
4. 陸上の他の巨大な動物
5. 大きくなれなかつた竜脚類
6. 巨大化の謎にせまる

入場者：142,188人（有料106,652人、75%）。有料入館者率が高いのは、館内で開催の特別展の場合は中学生以下が無料であるが、今回は3才以上が有料のため。講演会など10回、ギャラリートーク6回開催。

#### ④特別展 「恐竜の卵～恐竜誕生に秘められた謎～」

（読売新聞大阪本社と実行委員会を組織し開催）

＜会期＞ 平成30年3月10日（土）～5月6日（日） 52日間

（うち、29年度は19日間）

入場者：25,415名（うち有料 10,733名、42.2%）3月10日（土）～3月31日（土）

#### （3）特別陳列、テーマ展示及びミニ展示

##### ①テーマ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う！？～時を越えて発芽する植物標本のタネ～」

期間：平成29年3月4日（土）～4月9日（日）

場所：本館2階 イベントスペース

主催：大阪市立自然史博物館、新潟大学教育学部

標本を用いた植物の保全に関する最新の研究成果を紹介した。残されたタネの生存が確認された、大阪府では絶滅したと考えられているカワツルモやヒメヒゴダイの標本など、研究の重要な資料を展示了。

##### ②テーマ展示「パネルで見る2016年熊本地震 活断層に備えよう」

期間：平成29年7月29日（土）～9月18日（月・祝）

場所：本館2階イベントスペース

後援：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター

協力：全国科学博物館協議会、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター

開催期間中の入館者数：常設展47,017名

2016年熊本地震が発生して以降、第一線で調査活動を行った産総研地質調査センターが作成した「2016年熊本地震－活断層に備えよう」展のパネルに加え、大阪市立自然史

博物館が作成した活断層の地層剥ぎ取り模型、近畿の活断層の解説パネル、非常持ち出し袋の見本、大阪市の防災マニュアルの展示を行った。

③テーマ展示「博物館の学校向け貸出資料」

期間：平成 29 年 12 月 16 日（土）～平成 30 年 1 月 26 日（金）

場所：本館 1 階 ナウマンホール

主催：大阪市立自然史博物館

開催期間中の常設展入館者数：8,758 人

博物館の学校向け貸出資料を、下記 9 施設から借用し、大阪市立自然史博物館の資料とともに展示した。各館の貸出資料のねらいや、貸出方法など、それぞれの特徴をパネルで紹介した。関連企画として、1 月 6 日（土）に貸出資料の研究会を実施し、学校関係者や博物館関係者など、44 名の参加者があった（発表者・館内スタッフを含む）。成果は記録集にまとめ、PDF でウェブ公開した。

協力館：伊丹市昆虫館、きしわだ自然資料館、国立科学博物館、国立民族学博物館、大東市立歴史民俗資料館、高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）、天王寺動物園、独立行政法人国立美術館、兵庫県立人と自然の博物館

※平成 29 年度全国科学博物館活動等助成を受けて実施。

④テーマ展示「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」

期間：平成 29 年 12 月 16 日（土）～平成 30 年 1 月 28 日（日）

場所：本館 2 階 イベントスペース

開催期間中の常設展入館者数：9,672 人

小中高生が日頃から採集している標本や夏休みの自由研究を展示した。生き物や化石・岩石がテーマの作品を対象とし、関連する分野の学芸員による手書きの講評を付けた。展示した作品の分野は、昆虫が 8 点、鳥類が 2 点、哺乳類が 1 点、魚類が 1 点、貝類が 2 点、甲殻類・海岸生物が 2 点、その他の動物が 1 点、植物・キノコが 8 点、岩石が 1 点であった。

⑤ミニ展示「日本のハナシノブ」

期間：平成 29 年 6 月 10 日（土）～7 月 9 日（日）

場所：本館 1 階入口横 展示スペース

開催期間中の常設展入館者数：11,170 人

日本産ハナシノブ属植物について標本および写真、研究成果の紹介パネルを展示した。ハナシノブ属はすべての分類群が絶滅危惧であり、また大阪近辺には自生しない。なかなか出会えない希少な植物について市民に広く知らうことを目的とした。手軽にハナシノブに出会える場所を紹介することで、野外観察へつながる展示を心がけた。

⑥ミニ展示「戌年展」

期間：平成 30 年 1 月 5 日（金）～2 月 4 日（日）

場所：本館 1 階入口横 展示スペース

開催期間中の常設展入館者数：8,642人

2018年の干支、戌年にちなんで、遺跡から発掘されたイヌの頭蓋骨やニホンオオカミの犬歯・臼歯の展示をしたほか、イヌモンキチョウ（昆虫）やイヌノヒゲ（植物）、イヌノシタ（魚）など、イヌにちなんだ名前を持つ昆虫や植物、魚を展示した。

#### ⑦館外での展示

##### ■大阪府立中央図書館・大阪市立図書館での展示

特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」の広報および連携事業の一環として、大阪市内の図書館12館（東成、生野、東淀川、島之内、淀川、浪速、此花、城東、東住吉、旭、北、中央）および府立図書館において、4月から10月にかけてミニ展示を行った。市立地域館：4月2日～10月18日、市立中央：6月2日～7月5日、府立中央：4月11日～5月7日。

### 3. 調査研究事業

調査研究は博物館活動の根幹をなすものであり、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、科研費など外部資金を獲得しての研究、平成31年度の特別展開催に向けて市民との協働で進める「大阪を中心とした外来生物の影響プロジェクト調査」などを実施してきた。それらの成果の一部は特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」でも紹介したほか、館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。外来研究員も含む論文や著作数は、国際誌31件、国内誌25件、一般誌と講演要旨199件、図書8点であった。

市民に開かれた研究施設として、外部研究者の受け入れに関する要項により平成29年度は69名の外来研究員を受け入れた。収蔵標本や研究設備・機器を使って研究成果を公表するとともに、収蔵標本の充実にも寄与している。

29年度は外部研究資金として文部科学省科学研究費補助金は1,793万円（直接経費・間接経費合計）を獲得し、基盤研究8件（基盤研究B2件、同C6件）、若手研究2件、挑戦的萌芽研究1件、研究活動スタート支援1件の研究を進めた（外来研究員を含む）。また分担研究者として6件（9名）の研究を実施し、研究費（間接経費を含む）375万円の配分を受けた。民間ファンドその他では、厚岸湖・別寒刃牛湿原学術研究奨励補助研究、水源地生態研究会、屋久島環境文化財団、全国科学博物館活動等助成事業、環境再生保全機構環境研究総合推進費による研究助成が採択され、338万円（繰り越し分含む）の配分を受けた。

### 4. 教育・普及事業

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、野外で実物の自然に触れることも重要である。自然史博物館ではこのような観点から、多様な博物館利用者とその要望に応えるため、各種の普及行事を行っている。これら教育・普及事業の開催は162回（昨年度は186回）、友の会開催の行事が39回で合計201回（昨年度は214回）、参加者総数は32,450人（昨年度は32,195人）であった。

また、行事の実施に際しては、自然史博物館のボランティアである補助スタッフの協力を得ている。補助スタッフとして延べ192名の方々に協力いただいた。

## 5. 学校・市民等との連携

「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、学校教員や教員を目指す大学生・自然観察会指導者を対象とした「教員・観察会指導者向け支援プログラム」を計画的に実施できた。学校向けには、展示解説や標本など博物館資料の貸出し、学校教育を支援してきた。また8月3日には「教員のための博物館の日」を、全国科学博物館活動等助成を受けて開催し、参加者数は121名であった。小中学校の団体見学は合計で406校（市内小学校135校、市外小学校186校、市内中学校43校、市外中学校42校）で、昨年度と比べ46校の減少であった。そのうち、学芸員による特別レクチャーは、保育所・幼稚園2件、小学校6件、中学校8件、高校4件、大学3件合計23件であった。

大学生の博物館実習は、17大学、36名の学生を受け入れた。職場体験学習は、大阪府内の中学校8件、府外の高校1件（計15人）を受け入れた。

友の会会員を中心に100人以上の市民が参加するプロジェクトA「外来生物の影響調査」を実施中である。「認定NPO大阪自然史センター」との連携により、博物館事業の充実にも努めている。

## 6. 情報発信、広報宣伝

情報発信、広報宣伝については館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的として取り組んだ。従来型の展示事業・教育普及事業のポスター・チラシを中心とした広報に加えて、研究成果などのプレスリリース、Web・SNSを利用した広報に積極的に取り組んだ。

地下鉄車内ガイド放送（最寄り駅案内）を通年で実施して、通常は常設展の案内、特別展開催時は特別展情報を案内して、地下鉄御堂筋線沿線の利用者に対して広く博物館の存在を周知することができた。

ホームページは、新着情報は61件を発信（台風による臨時休館など一時的なものを除く）するなど、タイムリーで内容豊富な情報発信に努めている。平成29年度のHPアクセス数（トップページ）は約38.5万件で、昨年比13.9万件減。28年度の生命大躍進展開催時に増加した分の減少になる。HP掲載の新着情報を中心に「Twitter」、「Facebook」を通じて情報提供するなどしている。Twitterの発信数は271件、フォロワー数は平成30年3月31日時点で7120人（前年比1034人増）であり、広報媒体として良好に機能していることがうかがえる。Facebookについては、情報がどのくらいの人に到達したかの指標でもある合計リーチ数が、昨年度が39万人だったのに対し、今年度は約32万人と減少している。これは、新着情報の投稿数減少が原因であろう。博物館Facebook単体でのリーチ数は13万6千に過ぎず、昨年同様シェアなど

により拡散されていることが伺える。また英語版Facebookページを開設し、不定期ながら外国からの来館者向けの情報提供を試みている。

昨年度から特別展の解説用に作成した映像などを動画投稿サイトYouTubeに試行的に掲載しており、昨年に続き「瀬戸内海の自然を楽しむ」展でも、学芸員によるギャラリートーク8番組を撮影し、YouTubeで公開した。多いものでは240回以上再生され、少人数対象のギャラリートークをより多くの市民に楽しんでいただくことを可能とした。また特別展の内覧会には、特別展を宣伝協力いただくブロガーを招待し、市民参加型の広報を実施した。

学術リポジトリの公開：当館は研究報告・自然史研究を国立情報学研究所の Nii-NELS を利用して CiNii などに公開してきたが、同事業の停止に伴い JAIRO Cloud を利用したりポジトリシステムを平成 29 年度より運用開始した (<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>)。平成 29 年度には近年当館が発行した科学研究費などの報告書、「大阪市立自然史博物館研究報告」、「自然史研究」「大阪市立自然史博物館館報」の登録をすすめ、PDF 公開を行っている。また当館内に事務局において発行をしている学術雑誌「関西自然保護機構会誌」およびその後継誌である「地域自然史と保全」についても目次情報の登録をおこない、合計 1262 アイテムの情報がリポジトリ経由で発信されている。平成 29 年度に発行された新館も順次登録の予定である。平成 29 年度の総ダウンロード数は 8488 件、サイトの閲覧回数は 7531 回となっている。

## 7. 来館者サービスの向上

「花と緑と自然の情報センター」には、図書閲覧・情報検索・標本閲覧・ビデオ閲覧のコーナーがあり、学芸員を配置して質問等にも対応し、多くの市民の学習の場になっている。また、本館ミュージアムサービスセンターには総務課スタッフを配置して学校対応や市民サークルへの窓口になった。常設展では、来館者向けイベントの「ジオラボ」「子ども向けワークショップ」「自然史博物館探検クイズ」を実施し、多くの来館者から好評を得ている。

外国人旅行者・外国人居住者に向けた環境整備として、昨年度に引き続き文化庁の平成29年度「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」において、大阪市博物館協会が申請、採択された「大阪市博物館施設の国際発信強化事業」により、展示室の49ヶ所にQRコードパネルが設置され、QRコードを読み取ると、学芸員による解説 (YouTubeの映像、英語字幕有り)、展示パネルでは説明されていない詳しい解説や子供向けの解説 (ともに日、英、中(簡・繁)、韓国語に対応)を見たり読んだりできるようになった。今後、これらを活用して来館者への情報提供をさらに充実させていきたい。

また、ゴールデンウィーク中の5月1日、お盆期間中の8月14日に、来館者の利用促進のため臨時開館を行った。

## 8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めてきた。職員による日常的な安全点検を励行するとともに、職場安全衛生委員会の

職場巡視も行っている。防災対策では、隣接の長居パークセンターと協働で震災・防火訓練を実施した。平成 29 年度には本館常設展示室の展示ケース内照明を LED 照明に変換する工事を実施した。また大阪市により、本館屋上防水工事及び各室空調設備・館内放送設備・監視カメラ設備等の更新工事が実施された。

## 9. 友の会

自然史博物館友の会（29 会計年度は 1,639 名（家族単位））は、昭和 30 年に大阪市立自然科学博物館後援会として発足した当初から、博物館と連携しながら市民と博物館をつなぐ役目を果してきた。その自然史博物館友の会を母体として平成 13 年には「NPO 大阪自然史センター」が発足し、現在は大阪自然史センターが友の会を運営している。友の会会員向けの観察会などを 39 回開催（のべ 2,274 名が参加）し、学芸員が観察指導を行った。友の会会員は、友の会が主催する行事に参加するだけでなく、博物館が開催する各種の普及教育事業にも積極的に参加し、行事を盛り上げてくれている。また友の会行事は積極的に公開し、一般の人々の参加も可能にしているので、参加者の満足度も高く、友の会への関心を高めることができた。

## 10. ユニークベニュー事業など

### ・ユニークベニュー事業の試行実施

当館では、大阪市が進める MICE 招致に協力し、大阪観光局と共同でユニークベニュー事業を試行実施し、大阪の魅力発信に努めている。平成 29 年度には以下の試行を行った。

10 月 27 日（金）：大阪 MICE ビジネス・アライアンス 2017 年度第 2 回定例会

内容は、定例会の報告、基調講演、当館展示に関する解説、意見交換会（自然史博物館ユニークベニュー活用実証実験パーティー）。

### ・展示の魅力向上のために、市民からの寄附金を募集

(1) 自然史博物館オリジナル手ぬぐいの販売：クジラ骨格をデザインしたオリジナル手ぬぐいを作成・販売し、手ぬぐいの売上げの一部は、ザトウクジラ「ザットン」の吊り下げ経費に充当することを告知した。

(2) 大阪市ふるさと寄附金の利用：自然史博物館では新しい姿勢の恐竜（アロサウルス）を展示し、恐竜の魅力やサイエンスを紹介したいと考え、大阪市が進めている「ふるさと寄附金」（いわゆるふるさと納税）制度を利用して、多くの市民からの寄附金により、展示を実現できるよう進めている。

## 6 大阪市立美術館管理運営事業

美術館では、展覧会にかかる事業が中心となって全体の事業が展開している。平成 29 年度は、特別展として「木×仏像—飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏 1000 年」「第 63 回全関西美術展」「ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法」「改組 新 第4回日展」の 4 本の展覧会と、特別陳列「土佐光起生誕 400 年 近世やまと絵の開花—和のエレガンス」を開催した。また所蔵品・寄託品によるコレクション展(平常展)では、それぞれの展示でテーマ設定に工夫をこらし、作品に様々な角度から光をあてるこことによって、多彩な展示を実現させた。こうした展覧会の展示や講演・美術講座の開催などを通じて、市民の情操と知的好奇心を刺激し、学習支援とともに美術に対する関心を高めしたことにより、多くの来館者を得ることができた。

一方、展覧会や講演会・講座、論考などのために作品の調査・研究を行い、来館者への情報提供を行った。また、寄贈希望作品や新たな寄託品受入のための調査によって、新たな寄贈作品を受け入れることができた。そして、作品の収集・保管・貸出をはじめ、施設と設備の維持管理にも万全を期してきた。さらに、大阪市が平成 33 年度(2021)着工を目指している大規模な改修に対して、美術館運営の実績等を踏まえ協力してきており、平成 30 年度も引き続き協力・参画をしていく。

### 1. 資料の収集・保管事業

- ・近世日本画 1 件、近代日本画 2 件、中国書跡 8 件、中国絵画 6 件（合計 17 件）の寄付申出作品に関する評価を行い、経済戦略局に上申して決裁後に台帳登録した。平成 30 年 3 月 31 日での総収蔵品数 8,490 件。
- ・寄託作品は 41 件を受入れ、38 件を返戻した。
- ・国内外の美術館・博物館に 144 件（144 点）の作品貸出し起案決裁事務を行い、出版社などに作品の写真画像 82 件（87 点）を貸出しした。
- ・南収蔵庫の燻蒸作業を実施し、あわせて I P M（総合的有害生物管理）の一環としての防虫・防黴にかかる清掃作業も実施した。

### 2. 展示事業

#### (1) コレクション展

美術館の所蔵する日本、中国等の東アジアの作品を中心としたコレクションのなかから、日常の調査研究の進展や保存状況を考慮したうえで、作品を選定し展示を行っている。

特別展の開催期間に合わせ、21 の主題で展示を行った。

4 月 8 日（土）～5 月 14 日（日） 5 月 1 日（月）開館 33 日間

「丸山石根 西国三十三所観音御画像Ⅰ」「絵巻物撰」「奈良・平安の写経」「木×美術—絵画と工芸—」

4 月 28 日（金）～6 月 4 日（日） 5 月 1 日（月）開館 34 日間

「仏画×風景」「円山・四条派の絵師たち」  
7月7日（金）～7月19日（水）／8月1日（火）～8月20日（日） 31日間  
「丸山石根 西国三十三所観音御画像Ⅱ」「清涼をもとめて 夏の工芸」「おおさか洋画物語」  
8月1日（火）～10月1日（日） 8月14日（月）開館 55日間  
「中国の彫刻」  
9月2日（土）～10月1日（日） 26日間  
「源氏絵」「長尾雨山の見た中国書画」「千花百果—四季をめぐる中国書画」「多彩なる隸書—漢の石刻」  
10月14日（土）～11月26日（日） 38日間  
「高僧のおもかげー仏教美術ー」「書画にあそぶ」「物語×絵画」  
11月28日（火）～12月27日（水）／1月3日（水）～1月21日（日） 44日間  
「カザールコレクションと私たちと未来と」  
2月24日（土）～3月25日（日） 26日間  
「古銅の美—中国と日本の金属工芸」「桃の節句—ひなまつり」「眼で味わう—詩歌、奏楽の調べ」  
本年度も、館外の案内看板の一部にコレクション展の案内をのせ、展示室内の解説パネル、題簽・作品解説などにも読みやすいフォントを使うなどの工夫をこらし、見やすさとわかりやすさにつとめた。なお、コレクション展全体の観覧者は68,556人(特別展入館者を含む)であった。

## (2) 特別展・特別陳列

学芸員の調査研究の蓄積を基礎に、利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設定し、また全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致して特別展を開催した。

### ①木×仏像(きとぶつぞう)-飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏 1000年

〔平成29年4月8日（土）～6月4日（日） 51日間、観覧者数30,322人〕

主催：大阪市立美術館、産経新聞社

日本の木彫仏の魅力を再発見することを目的とし、素材である「木」に注目しながら鑑賞していただく企画展であった。一本の樹木にこだわり、由緒ある古材にこだわって造られた仏像。その造形に親しみ、楽しむ空間を提供した。

国宝1件、重要文化財22件を含む約70体の仏像で構成される今回の展示は、時代ごとに変わる木材の種類に着目した。また、その作り方や形状がわかりやすいよう、360度どこからでも見られる配置にするなど工夫を凝らした。来館者にも非常に好評であった。

## ②第 63 回全関西美術展

[平成 29 年 7 月 7 日（金）～7 月 19 日（水） 12 日間、観覧者数 6,500 人]

主催：大阪市立美術館、読売新聞社

全関西美術展は、昭和 16 年に大阪市民の芸術振興を目的として、公募による総合芸術展「大阪市展」として発足したが、現在は「全関西美術展」と改称して出品対象の地域を限定せずに、読売新聞社と共に開催している。今年度は 733 点の応募があり、516 点が入選し、無鑑査・招待作家の作品 310 点を含めて 826 点の作品を展示した。

昨年度に続き開催経費の縮減を図っているものの、毎年大きな赤字を抱える展覧会であり、いつそうの合理化を進める必要がある。

## ③特別陳列 土佐光起 生誕 400 年 近世やまと絵の開花—和のエレガンス—

[平成 29 年 9 月 2 日（土）～10 月 1 日（日） 26 日間、観覧者数 6,896 人]

主催：大阪市立美術館

四季の自然、そこに生きる人や生き物を優美に描いた、日本の伝統的な絵画様式を「やまと絵」という。土佐派は室町時代にやまと絵の制作を主導する絵所預（えどころあずかり）を世襲するなど権威と伝統を誇った大流派であった。

平成 29 年（2017）はこの土佐派中興の名手、光起の生誕 400 年の節目にあたる。これを記念して、その清新な画風に改めて注目する特別陳列を企画した。光起とその子・光成らを中心とする土佐派作品約 50 点により、雅やかな「和」の情趣にみちた近世やまと絵の魅力を紹介した。開催にあたっては、芸術文化振興基金から 116 万円の助成を受けた。

## ④ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法

[平成 29 年 10 月 14 日（土）～平成 30 年 1 月 21 日（日） 82 日間、

観覧者数 170,758 人]

主催：大阪市立美術館、読売テレビ、読売新聞社

今も絶大な人気を誇るウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ作品。1928 年のミッキーマウスのデビュー作「蒸気船ウィリー」から最新作「モアナと伝説の海」まで、約 90 年におよぶディズニー作品の原画、コンセプト・アートなど約 500 点を展示了。

本展では、「動き出でいのち」「いのちが吹き込まれた瞬間」をコンセプトに、キャラクター表現のために積み上げてきた試行錯誤とたゆまぬ技術革新の歴史を紹介した。

本館では、アニメーションというこれまでにないテーマの展覧会であり、若い年齢層の女性を中心に、目標を大きく上回る観覧者を得た。

## ⑤ 改組 新 第4回日展

〔平成 30 年 2 月 24 日（土）～3 月 25 日（日） 26 日間、観覧者数 40,177 人〕

主催：大阪市立美術館・公益社団法人日展

日展は、明治 40 年に文部省美術展覽会として始まり、名称の変更や組織を改革しながら 100 年をこえる長きにわたって続いてきた日本で最も歴史と伝統のある公募展である。日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の 5 部門からなり、日本を代表する巨匠から新人作家の入選作までの多彩な作品の数々を紹介してきた。平成 27 年に組織改革に伴って「改組 新 第 1 回日展」として開催し、今回は組織改革後、4 回目の開催となった。会員作家及び今回の入賞者による基本作品 246 点と、大阪・兵庫・奈良・和歌山に在住する会員作家の作品や入選作品などの地元作品 335 点、あわせて 581 点の作品を陳列した。

内訳は日本画 95 点、洋画 113 点、彫刻 53 点、工芸美術 78 点、書 242 点で、日展出品作家による作品解説を 16 回開催した。また、日展作家による作品プレゼント抽選会を毎週土曜日に 5 回開催した。

### 3. 調査・研究事業

- ・平成 29 年度に開催した特別展「木×仏像—飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏 1000 年」「ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法」、特別陳列「土佐光起生誕 400 年 近世やまと絵の開花—和のエレガンス」、および平成 30 年度の開催を予定している特別展「江戸の戯画—鳥羽絵から北斎・国芳・暁斎まで」「ルーヴル美術館展 肖像藝術 一人は人をどう表現してきたか」「フェルメール展」、特集展示「生誕 150 年 阿部房次郎と中国書画（仮称）」について、作品情報の調査・研究を実施した。
- ・『大阪市立美術館紀要』18 号を年度末に発行し、当館学芸員 6 名と本年度インターンシップ参加学生による、館蔵品・寄託品に関する論文と、インターンシップ活動報告を掲載した。
- ・平成 25 年度に文部科学省による科学研究費対象施設と認められたが、平成 29 年度科学研究費補助事業として引き続き 2 研究を実施した。平成 26-29 年度の助成に「材質からみた日本彫刻史研究—素材選択の背景の探求と木彫像の年輪年代調査による—」があり、その研究成果によって、平成 29 年度特別展「木×仏像—飛鳥仏から円空へ、日本の木彫仏 100 年」の開催に至った。平成 29-32 年度の助成として「中国の王朝交代期における絵画動向をめぐって—宋代以後の遺民画家の作例を中心に」が採択され、自主企画展に向け、調査を始めている。また、平成 26-28 年度助成として採択された「絵手本のあら研究—橋守国・大岡春卜から北斎まで—」の調査研究をもとに、平成 30 年度に開催する特別展「江戸の戯画—鳥羽絵から北斎・国芳・暁斎まで」を企画し、準備を進めた。
- ・平成 28・29 年度にかけて、公益財団法人ポーラ美術振興財団から「土佐派による近世やまと絵様式の確立と展開に関する基礎的調査研究」の助成を受け、その成果によって平成 29 年度に特別陳列「土佐光起 生誕 400 年 近世やまと絵の開花—和のエレガンス」の

展覧会を開催した。平成 29 年度には公益財団法人出光文化福祉財団より「国内所在作品調査を踏まえた芝山漆器の総合的研究」への助成を得て、本館に所蔵の芝山漆器の美術的価値を見直したことは、今後のコレクション展示にとって大変有用であった。

#### 4. 教育・普及事業

##### (1) インターン研修事業

中国書画の分野について大学院生 2 人の研修生を受入れた。内容は館蔵・寄託の収蔵品の作品調査・整理の補助に加え、コレクション展の一つについて、企画から作品選定、解説執筆、展示・撤収作業という一連の業務を、学芸員の指導のもとに経験した。

##### (2) 博物館実習

実習生として 21 大学から 47 名の大学生を 6 月 23 日（金）～6 月 30 日（金）の 6 日間受け入れて博物館実習を実施した。特別展「全関西美術展」に関する補助作業の実習、および工芸や書画の作品の取り扱いなどの講義・実習のカリキュラム内容で実施した。

##### (3) 記念講演会など（合計 53 回、総参加者数 6,569 人）

・特別展「木×仏像—飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏 1000 年」	
講演会 3 回（当館学芸員 2 回、外部講師 1 回）	384 人
・特別陳列「土佐光起 生誕 400 年 近世やまと絵の開花—和のエレガンス—」	
講演会 1 回（外部講師 1 回）	46 人
美術講座 1 回（当館学芸員 1 回）	61 人
見どころレクチャー 3 回（当館学芸員 3 回）	107 人
・特別展「改組 新 第 4 回日展」	
作品解説 16 回（出品作家 16 回）	790 人

##### (4) 普及イベント（合計 2 回、総参加者数 1,341 人以上）

・特別展「改組 新 第 4 回日展」	
日展作家プレゼント抽選会 5 回（地元作家提供によるプレゼント抽選会）	
	（抽選券配布合計 750 枚）

#### 5. 学校・市民等との連携

##### (1) 小学校・中学校・支援学校の鑑賞授業（合計 5 回、総参加者数 197 人）

・特別展「木×仏像—飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏 1000 年」	
小学校 1 回	58 人
大学 2 回	52 人
・コレクション展	

小学校	2回	87人
この内、市立瓜破東小学校（11月1日）の鑑賞授業については、大阪市博物館協会の学校連携として実施した。		
(2) 大学・学術団体との連携（合計1回、総参加者数 51人）		
・コレクション展「長尾雨山が見た中国書画」		
関連シンポジウム「長尾雨山と中国近代」	51人	
(3) 障がい者特別鑑賞会		
三菱商事株式会社と連携し、普段なかなか美術館等に行きづらい障がいの方々がゆっくりと鑑賞できる特別鑑賞会を特別展「ディズニー・アート展」開催時の12月2日（土）の閉館後に実施し、207名の参加を得た。		
(4) なにわの日記念 うえまちコンサート		
美術館の地元、NPO法人まち・すまいづくりが、浪速区を中心に行っている「なにわの日」のイベントの一環として、8月5日（土）になにわの日記念うえまちコンサート「真夏の夜に咲く弦楽の調べ in 大阪市立美術館」を開催し、172名の参加を得た。		
(5) 美術館へ行こう		
・「春の親子写生会」を5月3日（水・祝）に行い、24人の参加を得た。		
・夏休みに小中学生を対象とした絵画などの教室を7月20日（木）～22日（土）と7月26日（水）～7月28日（金）の2回開催し、それぞれ10人、25人の参加を得た。		
・冬に大人向けの「石膏デッサン公開講座」を12月23日（土）～24日（日）に開催し、9人の参加を得た。		
(6) 団体レクチャー		
・学校やカルチャーセンターの団体鑑賞において、要望があつて対応可能な場合に限って20～30分程度のレクチャーを行った。平成29年度はコレクション展で1回、特別展「木×仏像—飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏1000年」で4回、特別陳列「土佐光起 生誕400年 近世やまと絵の開花—和のエレガンス—近世やまと絵の開花」で1回実施した。		

## 6. 情報発信、広報宣伝

ホームページに展覧会の見所や展覧会場の写真などを掲載し、即時性のある情報を提供して、展覧会情報等をやさしく説明しながら案内ができるよう努めた。昨年に続き、本年も文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成により、パンフレットの多言語化（英・中簡・中繁・韓）を行った。

平成29年度の美術館ホームページへのアクセス件数は、945,780件であった。

展覧会のポスター掲示やチラシの設置を、様々な広報協力をいただいているあべの地下街等の民間施設、及び各美術館・博物館に依頼し実施している。また、市営地下鉄の公共広報板への広告の掲出も行った。さらに、新聞社、放送局と連携し、新聞への記事掲載やテレビ

放映にも努めた。

特別展ごとにマスコミの学芸部・文化部などに案内を送り、開会式の前に報道内見会を開催して、それぞれの展覧会の特質と見どころをギャラリートークなどにより行い、展覧会の広報宣伝の依頼を行った。

また、グーグルアートへの作品画像の提供により美術館の優れたコレクションを世界にアピールすることができた。

また、天王寺公園エリアの魅力向上を目指して、大阪市や関係先と連携して、天王寺公園の魅力発信・情報発信に取り組んだ。「てんしば」運営の近鉄不動産と連携して、公園入り口付近のデジタルサイネージ及びポスター掲示板にて、当館の展覧会案内を広報した。

## 7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートや「てんしば」から美術館への案内表示や美術館へのアクセスを分かりやすくした。

また、案内表示の多言語化など、来館者により親切な案内板の設置を心がけるとともに、お客様のニーズをくみ上げて、受付での荷物の預かりや障がいの方の館内案内等を、必要があれば即時実践して、財団ならではのサービスを実施してきた。さらに、ゴールデンウイーク期間中の5月1日、お盆休み期間中の8月14日、また、特別展におけるクリスマス期間中の12月25日、年始の1月3日・4日に臨時開館を実施するなど来館者の利用促進に努めた。

## 8. 施設・設備の維持管理

警備・清掃・設備管理及び保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めている。職員による日常的な安全点検も励行した。

経年による施設や設備関係の老朽化が進み、大阪市とも連携しつつ維持管理に努めた。

また、大阪市とともに大規模改修へ向けての検討を進めた。

## 9. 友の会

友の会ニュースを5回発行し、野外写生会を4回、基礎講座を5回開催した。また、友の会の展覧会として、8月15日から8月20日に夏季展、第53回友の会展を2月20日から25日のそれぞれ6日間開催した。

今年度の会員は398人で、昨年度から48人の減となった。

## 10. 美術研究所

美術研究所は、関西を基盤として活躍している質の高い画家が講師として日々の指導を行っている。

絵画コンクールを6回、研究所展覧会を1回、絵画作品批評会を2回、ジョイントセミナ

ーを4回開催した。「美術館へ行こう」として小中学生を対象とした絵画、彫塑、石膏などの教室を2回、親子を対象とした写生会を1回、大人を対象とした石膏デザイン教室を1回開催し、合計68名の参加を得た。

入所検定は3月、6月、9月、1月を行い、計25名の入所者があった。

その結果、平成29年度研究生は126人となり、前年度より9人減となった。

## 7 大阪市立東洋陶磁美術館管理運営事業

平成 29 年度は、特別展として「ハンガリーの名窯 ヘレンド」と特別展「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」を開催した。特別展「ハンガリーの名窯 ヘレンド」では、2016 年に 190 周年を迎えたヘレンド窯の通史をブダペスト国立工芸美術館、ヘレンド磁器美術館、ハンガリー国立博物館、ハンガリーの個人コレクターなどの所蔵品によって初めて紹介した。東洋磁器との関わりにも焦点をあて、東洋趣味の視点から展覧会を構成した。

また、特別展「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」では、中国唐時代のシルクロードを通した文化交流を象徴するものの一つである「胡人俑」（ソグド人など西方異民族の姿を表した副葬用の陶製人形）に焦点を当て、甘肃省慶城県で発見された唐の游撃將軍、穆  
タイ泰（660-730）墓出土の加彩胡人俑等約 60 点を日本で初めて紹介した。胡人俑の最高傑作ともいわれる写実性に富んだ生き生きとした人物表現を見せる約 1200 年前の胡人俑は国内外から訪れた多くの来館者を魅了した。なお、本展に併せて、館蔵の海野信義コレクションを中心とした陶俑 18 点による特集展「中国陶俑の魅力」と、国立国際美術館所蔵の現代の人物彫刻 9 点を展示する連携企画「いまを表現する人間像」を同時開催した。

国際巡回企画展「イセコレクション - 世界を魅了した中国陶磁」では、美術コレクターとして、現在世界でもっとも注目されている伊勢彦信氏の多種にわたるコレクションのうち、その根幹とされる中国陶磁の全貌を始めて紹介した。国立ギメ東洋美術館と当館の 2 館により、フランスと日本での国際巡回企画展として、イセ文化財団の協力の許、外務省の後援をうけて開催。戦国時代から清時代に至る中国通史を網羅したイセコレクションは、中国陶磁を「唐物」として珍重し茶の湯の道具としても用いた日本の伝統的な美意識と、陶磁器を美術品として鑑賞する現代的な感性との両者によって収集されたことに焦点をあて、重要文化財 2 点を含めた 88 点で紹介した。

### 1. 資料の収集、保管事業

芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入について推進し、計 8 件(作品数 267 件 294 点、評価額 60,898 万円)の寄贈があった。

さらに、展示事業や調査研究用として、東洋陶磁その他美術に関する書籍等を収集した。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示（平常展示）

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、イビキンチヤン季秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺などの中から代表的作品を中心に約 300 点（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示した。

（平成 29 年 4 月 1 日（金）～平成 30 年 3 月 26 日（日））

また、昨年度寄贈された金子潤作品の公開を行うとともに（受贈記念「金子潤」）、常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催した。

「宋磁の美」 (平成29年8月12日(土)～9月10日(日))

「中国陶俑の魅力」 (平成29年12月16日(土)～平成30年3月25日(日))

## (2) 企画展示

国際巡回企画展「イセコレクション - 世界を魅了した中国陶磁」

(平成29年9月23日(土)～12月3日(日)、開催日数62日、入館者数20,434人)

本展は平成29年6月21日～9月4日にフランスの国立ギメ東洋美術館で開催された“Porcelain, chefs-d’œuvre de la collection Ise”の帰国展として、イセ文化財団の協力のもと、外務省の後援をうけて開催した。戦国時代から清時代までの中国陶磁を、重要文化財2点を含めた88点で紹介した。琳派や現代絵画など多種にわたる美術コレクターとして、現在世界でもっとも注目される伊勢彦信氏のコレクションは、これまでその一部の公開がされていたが、本展ではそのコレクションの真髄といえる中国陶磁の全貌を始めて紹介した。

ギメ東洋美術館で「日本人の美意識によって選び抜かれた中国陶磁」と紹介されたように、イセコレクションは中国陶磁を「唐物」として珍重し、茶の湯の道具としても用いた日本の伝統的な感性と陶磁器を美術品として鑑賞する現代的な感性の両方を併せもったものといえる。中国文化への深い理解に基づいて中国陶磁のコレクションはまさに独自の美意識により光彩を放つものといえる。コレクターの紹介として、伊勢邸での床の間の室礼などの様子をバナー等で展示し、中国陶磁の花生にジョルジュ・ブラックの作品をあしらった写真は、伊勢氏の美意識の一端を伺えるものとして好評だった。また、国立ギメ東洋美術館館長の寄稿文章も写真とともに紹介し、フランス人のイセコレクションに寄せる驚嘆と讃嘆の念も紹介した。

開催にあたって、概要発表記者会見が東京のフランス大使館大使公邸にて行われた。開催中はいくつかの美術専門雑誌で、本展を特集で紹介され、また終了後にもイギリスの美術評論家によって美術雑誌“Arts of Asia”で本展の特集が掲載されるなど国内外での反響が大きかった。なお、会期中には14日間を2度にわけて、近年増加している外国人旅行者の動向調査が行われた。

## (3) 特別展示

① 「ハンガリーの名窯 ヘレンド」

(平成29年4月8日(土)～7月30日(日)、開催日数99日、入館者数44,405人)

ゴールデンウィーク期間中の臨時開館:5月1日(月)

1826年、ハンガリーの首都ブダペストから南西に約110キロを隔てた小さな村ヘレンド

で、磁器の生産が始まった。ハプスブルク皇帝の保護を受け、高い水準に達したヘレンド窯の製品は、1851 年のロンドン万国博覧会でヴィクトリア女王からディナーセットの注文を受けたのを機にその名をヨーロッパ中に知らしめることとなる。その後も、東洋磁器に学んだ独自の様式を生み出して毎回の万国博覧会で受賞を重ね、高い評価を保ち続けた。19 世紀末、時流が大量生産へと向かう中で、手作業にこだわり常に最高のものを目指したヘレンド磁器は、ヨーロッパの多くの王侯貴族に愛され、名実共にハンガリー芸術を代表する存在となつた。

展覧会の企画、出品作品の選定には当初から当館が関わり、ブダペスト国立工芸美術館、ヘレンド磁器美術館、ハンガリー国立博物館、個人所蔵家などが所蔵する約 230 点の作品により、ヘレンド窯 190 年の歴史と魅力を紹介した。先行のマイセン窯やウィーン窯からの影響だけでなく東洋磁器との関わりにも焦点をあて、東洋趣味の視点から展覧会を構成した。特に個人蔵の大型壺は、作行の見事さと伊万里風の意匠に加え、世界初公開という話題性があり、広報印刷物の中心に据えて積極的にアピールした。展示の最終コーナーには、現代のヘレンド食器を用いたテーブルセッティングを配置し、このスペースを記念撮影コーナーとしてたいへん好評であった。喫茶では会期限定で、現代のヘレンド食器を用いたサービスをした。情報は SNS などで拡散されて反響があり、喫茶の利用から展覧会の動員へ繋がるという効果も見られた。西洋磁器の展覧会としては 5 年ぶりの開催で、前回以来の来館というアンケートのコメントもあり、来館動向について参考になった。

## ②特別展「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」

[平成 29 年 12 月 16 日（土）～平成 30 年 3 月 25 日（日）、開催日数 79 日、  
入館者数 26,722 人]

エキゾチックな風貌の「胡人」（ソグド人など西方異民族）は、中国唐時代のシルクロードを通した東西文化交流を象徴するものの一つである。本展では、甘肃省慶城県で 2001 年に発見された唐の游擊將軍、<sup>ぼくたい</sup>穆泰（660-730）墓出土の加彩胡人俑（俑＝副葬用の人形）等約 60 点の文物を日本で初めて紹介した。従来見たことのないような写実性に富んだ生き生きとした人物表現を見せる約 1200 年前の胡人俑は、インパクトのあるユニークな表情や姿態で多くの来館者を魅了した。ポスターやチラシのメインを飾ったヒョウ皮のタツをはいたガッツポーズをするかのような胡人俑は多くの人の目を引き、本展では全館写真撮影可としたこともあり、ネットや雑誌などでも度々取り上げられた。共催の NHK や朝日新聞社をはじめ主要全国紙や国内外の雑誌でも特集されるなど、メディアの反響も大きかった。また、展示内容の理解促進のため、全点オーディオガイドを導入し、また現地で撮影した映像によるオリジナルのビデオ番組（約 15 分）を館内や YouTube 上で放映し、またホームページ上では広報戦略の一環として会期前から予告動画（2 分）を放映した。作品全点撮り下ろしの豪華図録は会期中に完売し、好評を得た。

当館館長による講演会や担当学芸員による連続講座は例年以上の盛況となり、夜間開館時のイブニング・レクチャーも開催した。来館者アンケートによると、90.4%が満足と回答し、「感動しました。今までで一番!」、「ユーモラスで個性的な胡人俑にいやされました」などの賞賛の声が多く寄せられた。なお、本展は住友グループ19社の寄附(500万円)を得て開催された。

本展に併せて、館蔵の海野信義コレクションを中心とした陶俑約18点による特集展「中国陶俑の魅力」と、国立国際美術館所蔵の現代の人物彫刻約10点を展示する連携企画「いまを表現する人間像」を同時開催した。

連携企画は、国立国際美術館の開館40周年記念として共同企画したもので、当館で初めて近現代の彫刻作品を展示した。『神戸新聞』をはじめ、特別展と併せて異なる時代の人物表現を見比べる点に注目したメディアでの言及がみられた。来館者アンケートでは約80%の方が併催について「大変興味深かった」「おもしろかった」と回答し、ポスター及びチラシに掲載された舟越桂の作品を目的に来館したという声も聞かれた。著作権処理をはじめとした、現代美術特有の手続きについて情報共有の機会ともなり、文化施設の集合する中之島エリアにおいて今後一層期待される連携活動の端緒となった。

### 3. 調査・研究事業

展示事業に関する調査研究として、高麗青磁関連の特別展を参観調査し、とくに高麗青磁の中国北方での流通を確認のため、内モンゴルと遼寧省など北方地方を中心に最新の資料調査を実施した。また、東アジアにおける仏教文化や茶、飲酒文化に関する資料、さらに胡人俑関係の資料などを収集した。

また、韓国陶磁調査研究事業では「中後期高麗青磁の研究」をテーマとして韓国や中国の出土資料や窯址等の調査を行った。さらに、高麗と元の関連の様相をさぐるため、資料を調査してその成果を公開講座「元と高麗」で発表するとともに、『李秉昌博士記念 韓国陶磁研究報告11 「元と高麗』』を刊行した。

なお、外部資金による研究では、科学研究費補助金計4件(計3,120,000円(間接経費含む))を獲得し、基盤研究(C)3件及び若手研究(B)1件を実施した。

その他、研究成果は論文や学会発表、講演会など国内外で広く公表した。

### 4. 教育・普及事業

#### (1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催した。

##### ① 講演会

・特別展「ハンガリーの名窯 ヘレンド」記念講演会

「中国と日本の磁器に魅了されたヨーロッパ ヘレンドの磁器芸術」ガブリエッラ・バ

ッラ氏（ブダペスト国立工芸美術館 磁器ガラスコレクション部長 チーフ・キュレーター）

他計 2 回、参加者計 100 人

- ・特別展「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」館長講演会

「中国陶磁にみる人物表現」（当館館長） 計 1 回、参加者 70 人

② 講座

- ・特別展「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」連続講座

「唐代胡人俑展への誘い」（当館学芸員）計 3 回、参加者計 226 人

- ・李秉昌博士記念公開講座 11 「元と高麗青磁」

弓場紀知氏（石洞美術館・館長、兵庫陶芸美術館・副館長）、尹龍赫氏（韓国 国立公州大学校・名誉教授）、江建新氏（中国 景徳鎮市陶磁考古研究所・所長、景德鎮御窯博物館・館長）、当館学芸員による最新の研究成果の発表

参加者 161 人

③ アフタヌーン・レクチャー

- ・「宋磁の美—中国宋時代のやきものをめぐって」（当館学芸員）

- ・「金子潤作品の受贈とその魅力」（当館学芸員） 計 2 回、参加者計 29 人

④ 学芸員による見どころ解説

- ・特別展「ハンガリーの名窯 ヘレンド」（当館学芸員）計 8 回、参加者計 475 人

- ・特別展「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」（※「イブニングレクチャー」と題して、夜間開館時に展示室において実施）計 3 回、参加者計 65 人

- ・国際巡回企画展「イセコレクション - 世界を魅了した中国陶磁」（当館学芸員）

計 4 回、参加者計 136 人

(2) 博物館学・実習

博物館学を開講する大学の団体見学 4 校 117 人（桃山学院大学、大阪市立大学、甲南大学、放送大学）を受け入れ、当館学芸員がレクチャーを行った。

(3) ボランティアによるガイド事業

通常は特集展・平常展の会期中のみ、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行うが、本年は特別展の会場が 2 室だけだったため、特別展期間中も試験的に実施した。計 103 回、参加者計 1,272 人

また、平日については、団体見学者の入館に際しガイド予約のあった場合にギャラリーガイドを実施した。計 25 回、参加者計 600 人

このボランティアガイド登録者 32 名に対し、ガイド事業の充実を図るため、展覧会ごと

に学芸員が研修を行った。計 6 回。

## 5. 各種団体との連携

協会の各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校等との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図った（ポスター、チラシ、パンフレットの交換設置、掲載協力、相互情報提供等）。また、中央公会堂、中之島図書館、国立国際美術館、国際会議場等と連携し、水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島地域の活性化につながるイベントにも協力した。

## 6. 他の博物館等との連携

国内外の美術館、博物館、研究機関等との多角的な連携による共同研究、展覧会の共催、シンポジウム・研究会の開催等の事業協力及び学術交流を行った。

- ① 台北・國立故宮博物院南院開館特別展（「楊帆萬里－日本伊萬里瓷器特展（出帆万里－日本伊万里磁器特別展）」、「尚青－高麗青瓷特展（青を尊ぶ－高麗青瓷特別展）」）への出品
- ② 台北・國立故宮博物院との相互協力に関する覚書の締結
- ③ 茨城県陶芸美術館、パナソニック汐留ミュージアムとの「ヘレンド」展開催協力
- ④ 国立国際美術館との連携企画「いまを表現する人間像」の共催

## 7. 情報発信・広報宣伝

ホームページ、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マス・メディアの活用などにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知した。グーグル・アートなどとの提携により、優れたコレクションを世界に向けて情報発信した。ホームページの年間アクセス数は 1,001,625 件に達した。

そのほか、入館者に対するアンケート調査を展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かした。

なお、館東側にポスター掲出用屋外看板を新規に設置し、展覧会情報の発信を強化した。

## 8. 来館者サービスの向上

平成 27 年度に実施した LAN 工事により、館内で「大阪 Free wifi light」が引き続き使用可能となり、海外からの来館者をはじめとした利用者のニーズに応えた。

平成 28 年度文化庁補助事業により作成した音声データを活用し、平常展示において主な館蔵品 60 点の作品解説を多言語対応（日・英・中・韓）の音声ガイド機のレンタルを開始した。

また、文化庁補助事業により、従来対応ができずにいた館概要、ホームページの中国語繁体字版の作成を実施した。これにより、海外からの来館者のうち大多数を占める中国圏の人々への細やかな対応が可能となった。

海外からの利用者に対しては、これまで館内サイン・常設展キャプションなどについても英文を併記して対応してきた。近年では特別展・企画展の展示パネルなどについて、英語以外にも内容に応じた言語を加えるなどの工夫をしている。ホームページについても、4か国語(日・英・中(繁・簡体字)・韓)の構成として情報を発信してきた。

光のルネサンス期間中には19時までの開館時間延長を行い、その間担当学芸員によるイブニングレクチャー(見どころ解説)などを実施して来館者へのサービスに努めた。

館周辺での案内看板(淀屋橋駅ホーム案内板、市役所横標柱案内板、館東側屋外看板)を新規に設置し、以前から指摘されていた最寄駅から当館までの誘導案内の充実に応えることができた。

また、ゴールデンウィーク中の5月1日、お盆期間中の8月14日に、来館者の利用促進のため臨時開館を行った。

## 9. 施設の維持管理

入館者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、建物設備の維持保全をはじめ、電気、機械設備などの定期点検等を実施し適切な維持管理に努めた。

警備・清掃及び設備等の保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めた。職員による日常的な安全点検も励行し、職場安全衛生委員会の職場巡視も行っている。防災対策では、館職員だけでなく、警備、設備、看護・受付などの業務委託従事者や喫茶の従事者も一体となって避難訓練を実施し、有機的かつ効果的な防災体制の充実を図った。

また、館内地震対策についての他館との情報交換を機として、照明器具への対策を強化し、スポットライトに落下防止用ワイヤーの導入を計った。

また、空調や構造的な問題から展示ケース内の温湿度管理が十分にできないことから、各展示ケースにデジタルデータロガーを設置し、年間を通して温湿度の測定を実施し、展示室環境の状況把握に努めた。

## 10. 出版等事業

展覧会図録(特別展「ヘレンド」、国際巡回企画展「イセコレクション - 世界を魅了した中国陶磁」、特別展「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」)の製作販売を行い、継続的に館蔵品図録(「東洋陶磁の美」、「堀尾幹雄コレクション濱田庄司」、「掌中の美 沖正一郎コレクション鼻煙壺」など)やミュージアムグッズの販売を行った。

## 11. 友の会事業

講演会、研究会、研修や「友の会通信」の発行などを通して会員(会員数367人、平成30年3月末時点)へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図った。

・友の会講演会：

「シノワズリーとヘレンド芸術」出川哲朗(当館館長)

計1回、参加者計34人

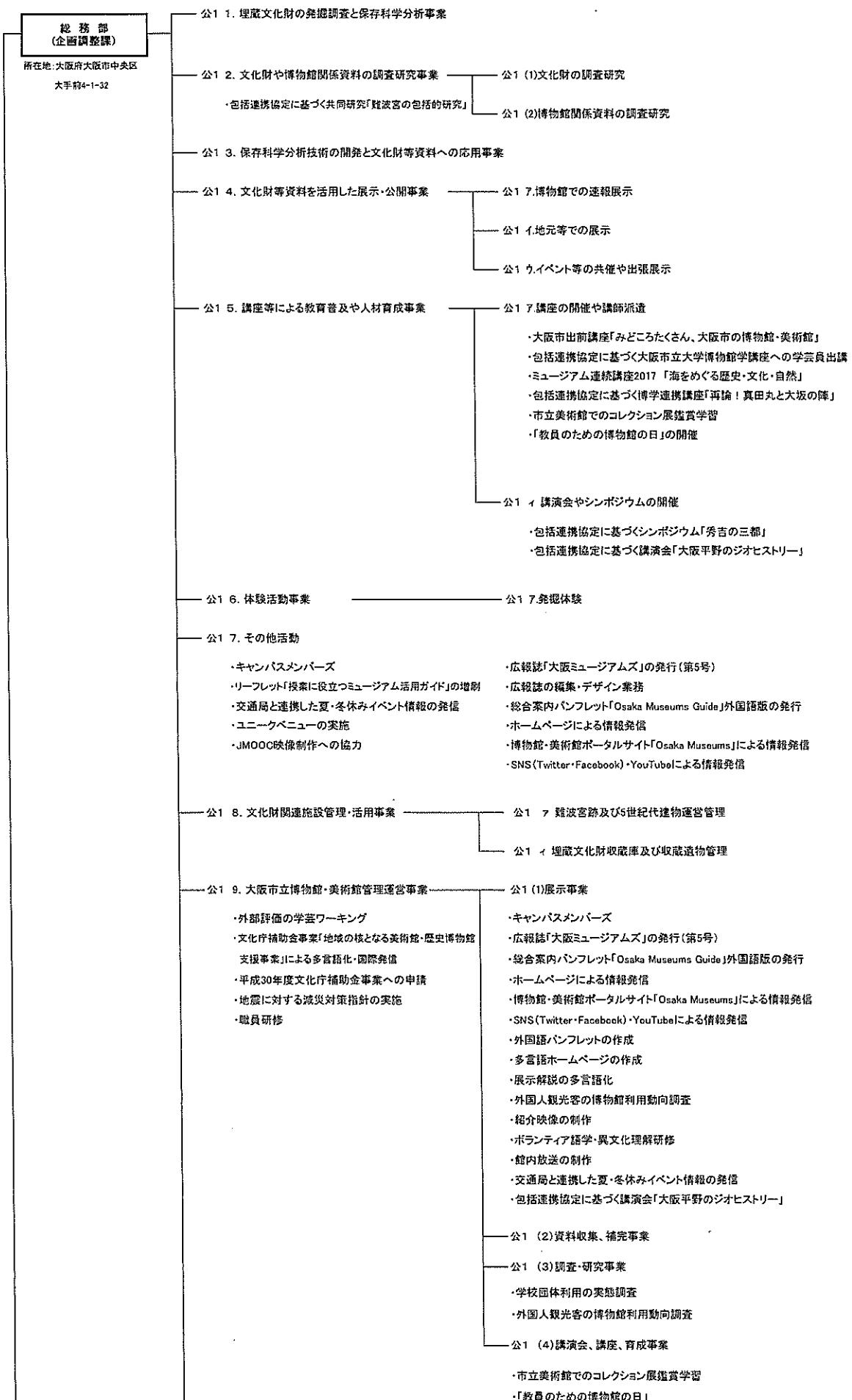
・友の会通信：

第121～124号、4回発行、発行部数各800部

## 平成29年度[公益事業対照表]

## 1. 総務部企画調整課

## 平成29年度 事業・組織体系図

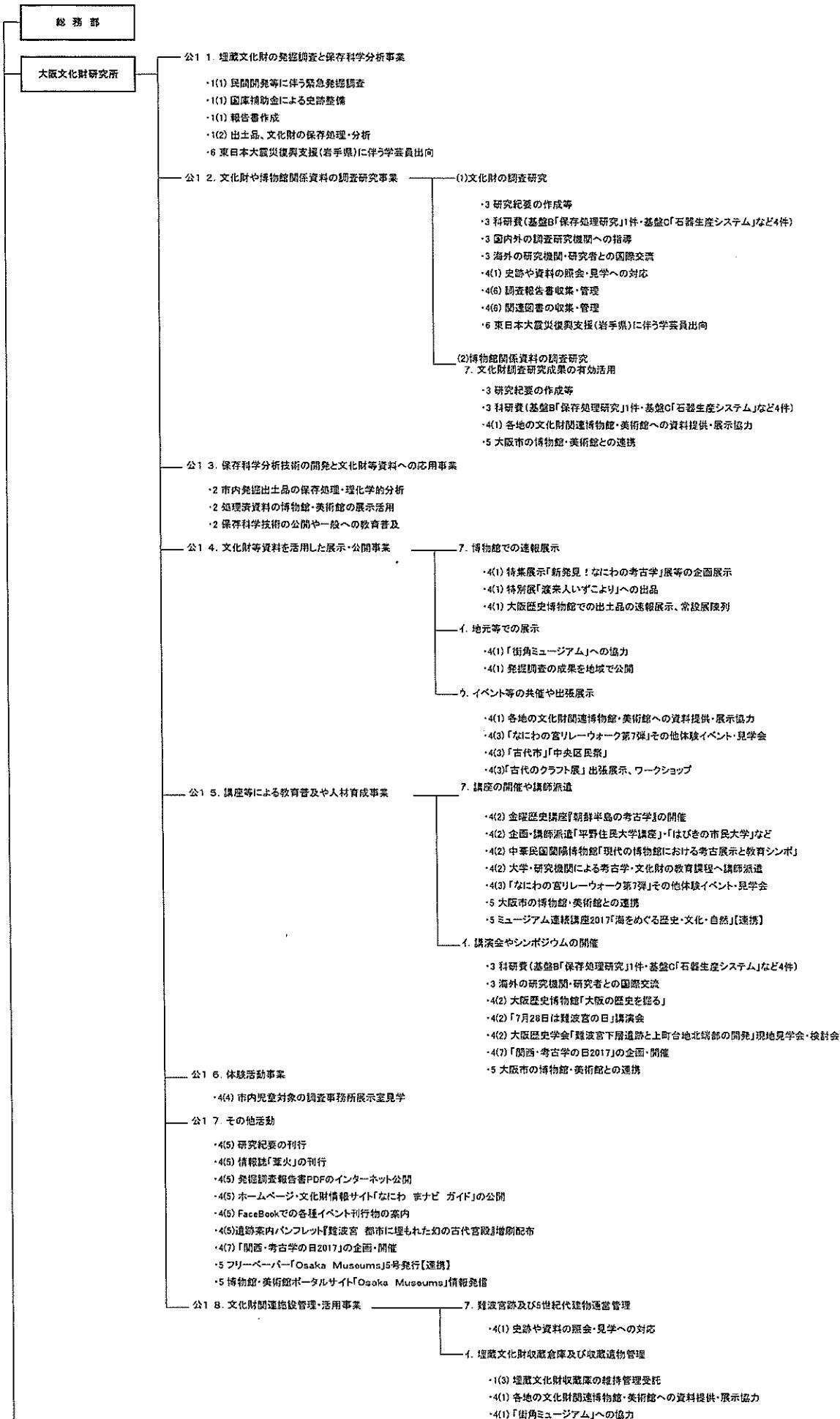


平成29年度[公益事業対照表]

2. 大阪文化財研究所

| 当協会公益事業等の一覧 | | 公1 | | | | | | | | | | 公2 | | 公3 | | 公4 | | 公5 | | 公6 | | 公7 | | 公8 | | 公9 | | 公10 | | 公11 | | 公12 | | 公13 | | 公14 | | 公15 | | 公16 | | 公17 | | 公18 | | 公19 | | 公20 | | 公21 | | 公22 | | 公23 | | 公24 | | 公25 | | 公26 | | 公27 | | 公28 | | 公29 | | 公30 | | 公31 | | 公32 | | 公33 | | 公34 | | 公35 | | 公36 | | 公37 | | 公38 | | 公39 | | 公40 | | 公41 | | 公42 | | 公43 | | 公44 | | 公45 | | 公46 | | 公47 | | 公48 | | 公49 | | 公50 | | 公51 | | 公52 | | 公53 | | 公54 | | 公55 | | 公56 | | 公57 | | 公58 | | 公59 | | 公60 | | 公61 | | 公62 | | 公63 | | 公64 | | 公65 | | 公66 | | 公67 | | 公68 | | 公69 | | 公70 | | 公71 | | 公72 | | 公73 | | 公74 | | 公75 | | 公76 | | 公77 | | 公78 | | 公79 | | 公80 | | 公81 | | 公82 | | 公83 | | 公84 | | 公85 | | 公86 | | 公87 | | 公88 | | 公89 | | 公90 | | 公91 | | 公92 | | 公93 | | 公94 | | 公95 | | 公96 | | 公97 | | 公98 | | 公99 | | 公100 | | 公101 | | 公102 | | 公103 | | 公104 | | 公105 | | 公106 | | 公107 | | 公108 | | 公109 | | 公110 | | 公111 | | 公112 | | 公113 | | 公114 | | 公115 | | 公116 | | 公117 | | 公118 | | 公119 | | 公120 | | 公121 | | 公122 | | 公123 | | 公124 | | 公125 | | 公126 | | 公127 | | 公128 | | 公129 | | 公130 | | 公131 | | 公132 | | 公133 | | 公134 | | 公135 | | 公136 | | 公137 | | 公138 | | 公139 | | 公140 | | 公141 | | 公142 | | 公143 | | 公144 | | 公145 | | 公146 | | 公147 | | 公148 | | 公149 | | 公150 | | 公151 | | 公152 | | 公153 | | 公154 | | 公155 | | 公156 | | 公157 | | 公158 | | 公159 | | 公160 | | 公161 | | 公162 | | 公163 | | 公164 | | 公165 | | 公166 | | 公167 | | 公168 | | 公169 | | 公170 | | 公171 | | 公172 | | 公173 | | 公174 | | 公175 | | 公176 | | 公177 | | 公178 | | 公179 | | 公180 | | 公181 | | 公182 | | 公183 | | 公184 | | 公185 | | 公186 | | 公187 | | 公188 | | 公189 | | 公190 | | 公191 | | 公192 | | 公193 | | 公194 | | 公195 | | 公196 | | 公197 | | 公198 | | 公199 | | 公200 | | 公201 | | 公202 | | 公203 | | 公204 | | 公205 | | 公206 | | 公207 | | 公208 | | 公209 | | 公210 | | 公211 | | 公212 | | 公213 | | 公214 | | 公215 | | 公216 | | 公217 | | 公218 | | 公219 | | 公220 | | 公221 | | 公222 | | 公223 | | 公224 | | 公225 | | 公226 | | 公227 | | 公228 | | 公229 | | 公230 | | 公231 | | 公232 | | 公233 | | 公234 | | 公235 | | 公236 | | 公237 | | 公238 | | 公239 | | 公240 | | 公241 | | 公242 | | 公243 | | 公244 | | 公245 | | 公246 | | 公247 | | 公248 | | 公249 | | 公250 | | 公251 | | 公252 | | 公253 | | 公254 | | 公255 | | 公256 | | 公257 | | 公258 | | 公259 | | 公260 | | 公261 | | 公262 | | 公263 | | 公264 | | 公265 | | 公266 | | 公267 | | 公268 | | 公269 | | 公270 | | 公271 | | 公272 | | 公273 | | 公274 | | 公275 | | 公276 | | 公277 | | 公278 | | 公279 | | 公280 | | 公281 | | 公282 | | 公283 | | 公284 | | 公285 | | 公286 | | 公287 | | 公288 | | 公289 | | 公290 | | 公291 | | 公292 | | 公293 | | 公294 | | 公295 | | 公296 | | 公297 | | 公298 | | 公299 | | 公300 | | 公311 | | 公312 | | 公313 | | 公314 | | 公315 | | 公316 | | 公317 | | 公318 | | 公319 | | 公320 | | 公321 | | 公322 | | 公323 | | 公324 | | 公325 | | 公326 | | 公327 | | 公328 | | 公329 | | 公330 | | 公331 | | 公332 | | 公333 | | 公334 | | 公335 | | 公336 | | 公337 | | 公338 | | 公339 | | 公340 | | 公341 | | 公342 | | 公343 | | 公344 | | 公345 | | 公346 | | 公347 | | 公348 | | 公349 | | 公350 | | 公351 | | 公352 | | 公353 | | 公354 | | 公355 | | 公356 | | 公357 | | 公358 | | 公359 | | 公360 | | 公361 | | 公362 | | 公363 | | 公364 | | 公365 | | 公366 | | 公367 | | 公368 | | 公369 | | 公370 | | 公371 | | 公372 | | 公373 | | 公374 | | 公375 | | 公376 | | 公377 | | 公378 | | 公379 | | 公380 | | 公381 | | 公382 | | 公383 | | 公384 | | 公385 | | 公386 | | 公387 | | 公388 | | 公389 | | 公390 | | 公391 | | 公392 | | 公393 | | 公394 | | 公395 | | 公396 | | 公397 | | 公398 | | 公399 | | 公400 | | 公401 | | 公402 | | 公403 | | 公404 | | 公405 | | 公406 | | 公407 | | 公408 | | 公409 | | 公410 | | 公411 | | 公412 | | 公413 | | 公414 | | 公415 | | 公416 | | 公417 | | 公418 | | 公419 | | 公420 | | 公421 | | 公422 | | 公423 | | 公424 | | 公425 | | 公426 | | 公427 | | 公428 | | 公429 | | 公430 | | 公431 | | 公432 | | 公433 | | 公434 | | 公435 | | 公436 | | 公437 | | 公438 | | 公439 | | 公440 | | 公441 | | 公442 | | 公443 | | 公444 | | 公445 | | 公446 | | 公447 | | 公448 | | 公449 | | 公450 | | 公451 | | 公452 | | 公453 | | 公454 | | 公455 | | 公456 | | 公457 | | 公458 | | 公459 | | 公460 | | 公461 | | 公462 | | 公463 | | 公464 | | 公465 | | 公466 | | 公467 | | 公468 | | 公469 | | 公470 | | 公471 | | 公472 | | 公473 | | 公474 | | 公475 | | 公476 | | 公477 | | 公478 | | 公479 | | 公480 | | 公481 | | 公482 | | 公483 | | 公484 | | 公485 | | 公486 | | 公487 | | 公488 | | 公489 | | 公490 | | 公491 | | 公492 | | 公493 | | 公494 | | 公495 | | 公496 | | 公497 | | 公498 | | 公499 | | 公500 | | 公501 | | 公502 | | 公503 | | 公504 | | 公505 | | 公506 | | 公507 | | 公508 | | 公509 | | 公510 | | 公511 | | 公512 | | 公513 | | 公514 | | 公515 | | 公516 | | 公517 | | 公518 | | 公519 | | 公520 | | 公521 | | 公522 | | 公523 | | 公524 | | 公525 | | 公526 | | 公527 | | 公528 | | 公529 | | 公530 | | 公531 | | 公532 | | 公533 | | 公534 | | 公535 | | 公536 | | 公537 | | 公538 | | 公539 | | 公540 | | 公541 | | 公542 | | 公543 | | 公544 | | 公545 | | 公546 | | 公547 | | 公548 | | 公549 | | 公550 | | 公551 | | 公552 | | 公553 | | 公554 | | 公555 | | 公556 | | 公557 | | 公558 | | 公559 | | 公560 | | 公561 | | 公562 | | 公563 | | 公564 | | 公565 | | 公566 | | 公567 | | 公568 | | 公569 | | 公570 | | 公571 | | 公572 | | 公573 | | 公574 | | 公575 | | 公576 | | 公577 | | 公578 | | 公579 | | 公580 | | 公581 | | 公582 | | 公583 | | 公584 | | 公585 | | 公586 | | 公587 | | 公588 | | 公589 | | 公590 | | 公591 | | 公592 | | 公593 | | 公594 | | 公595 | | 公596 | | 公597 | | 公598 | | 公599 | | 公600 | | 公601 | | 公602 | | 公603 | | 公604 | | 公605 | | 公606 | | 公607 | | 公608 | | 公609 | | 公610 | | 公611 | | 公612 | | 公613 | | 公614 | | 公615 | | 公616 | | 公617 | | 公618 | | 公619 | | 公620 | | 公621 | | 公622 | | 公623 | | 公624 | | 公625 | | 公626 | | 公627 | | 公628 | | 公629 | | 公630 | | 公631 | | 公632 | | 公633 | | 公634 | | 公635 | | 公636 | | 公637 | | 公638 | | 公639 | | 公640 | | 公641 | | 公642 | | 公643 | | 公644 | | 公645 | | 公646 | | 公647 | | 公648 | | 公649 | | 公650 | | 公651 | | 公652 | | 公653 | | 公654 | | 公655 | | 公656 | | 公657 | | 公658 | | 公659 | | 公660 | | 公661 | | 公662 | | 公663 | | 公664 | | 公665 | | 公666 | | 公667 | | 公668 | | 公669 | | 公670 | | 公671 | | 公672 | | 公673 | | 公674 | | 公675 | | 公676 | | 公677 | | 公678 | | 公679 | | 公680 | | 公681 | | 公682 | | 公683 | | 公684 | | 公685 | | 公686 | | 公687 | | 公688 | | 公689 | | 公690 | | 公691 | | 公692 | | 公693 | | 公694 | | 公695 | | 公696 | | 公697 | | 公698 | | 公699 | | 公700 | | 公701 | | 公702 | | 公703 | | 公704 | | 公705 | | 公706 | | 公707 | | 公708 | | 公709 | | 公710 | | 公711 | | 公712 | | 公713 | | 公714 | | 公715 | | 公716 | | 公717 | | 公718 | | 公719 | | 公720 | | 公721 | | 公722 | | 公723 | | 公724 | | 公725 | | 公726 | | 公727 | | 公728 | | 公729 | | 公730 | | 公731 | | 公732 | | 公733 | | 公734 | | 公735 | | 公736 | | 公737 | | 公738 | | 公739 | | 公740 | | 公741 | | 公742 | | 公743 | | 公744 | | 公745 | | 公746 | | 公747 | | 公748 | | 公749 | | 公750 | | 公751 | | 公752 | | 公753 | | 公754 | | 公755 | | 公756 | | 公757 | | 公758 | | 公759 | | 公760 | | 公761 | | 公762 | | 公763 | | 公764 | | 公765 | | 公766 | | 公767 | | 公768 | | 公769 | | 公770 | | 公771 | | 公772 | | 公773 | | 公774 | | 公775 | | 公776 | | 公777 | | 公778 | | 公779 | | 公780 | | 公781 | | 公782 | | 公783 | | 公784 | | 公785 | | 公786 | | 公787 | | 公788 | | 公789 | | 公790 | | 公791 | | 公792 | | 公793 | | 公794 | | 公795 | | 公796 | | 公797 | | 公798 | | 公799 | | 公800 | | 公801 | | 公802 | | 公803 | | 公804 | | 公805 | | 公806 | | 公807 | | 公808 | | 公809 | | 公810 | | 公811 | | 公812 | | 公813 | | 公814 | | 公815 | | 公816 | | 公817 | | 公818 | | 公819 | | 公820 | | 公821 | | 公822 | | 公823 | | 公824 | | 公825 | | 公826 | | 公827 | | 公828 | | 公829 | | 公830 | | 公831 | | 公832 | | 公833 | | 公834 | | 公835 | | 公836 | | 公837 | | 公838 | | 公839 | | 公840 | | 公841 | | 公842 | | 公843 | | 公844 | | 公845 | | 公846 | | 公847 | | 公848 | | 公849 | | 公850 | | 公851 | | 公852 | | 公853 | | 公854 | | 公855 | | 公856 | | 公857 | | 公858 | | 公859 | | 公860 | | 公861 | | 公862 | | 公863 | | 公864 | | 公865 | | 公866 | | 公867 | | 公868 | | 公869 | | 公870 | | 公871 | | 公872 | | 公873 | | 公874 | | 公875 | | 公876 | | 公877 | | 公878 | | 公879 | | 公880 | | 公881 | | 公882 | | 公883 | | 公884 | | 公885 | | 公886 | | 公887 | | 公888 | | 公889 | | 公890 | | 公891 | | 公892 | | 公893 | | 公894 | | 公895 | | 公896 | | 公897 | | 公898 | | 公899 | | 公900 | | 公901 | | 公902 | | 公903 | | 公904 | | 公905 | | 公906 | | 公907 | | 公908 | | 公909 | | 公910 | | 公911 | | 公912 | | 公913 | | 公914 | | 公915 | | 公916 | | 公917 | | 公918 | | 公919 | | 公920 | | 公921 | | 公922 | | 公923 | | 公924 | | 公925 | | 公926 | | 公927 | | 公928 | | 公929 | | 公930 | | 公931 | | 公932 | | 公933 | | 公934 | | 公935 | | 公936 | | 公937 | | 公938 | | 公939 | |
<th colspan="
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |

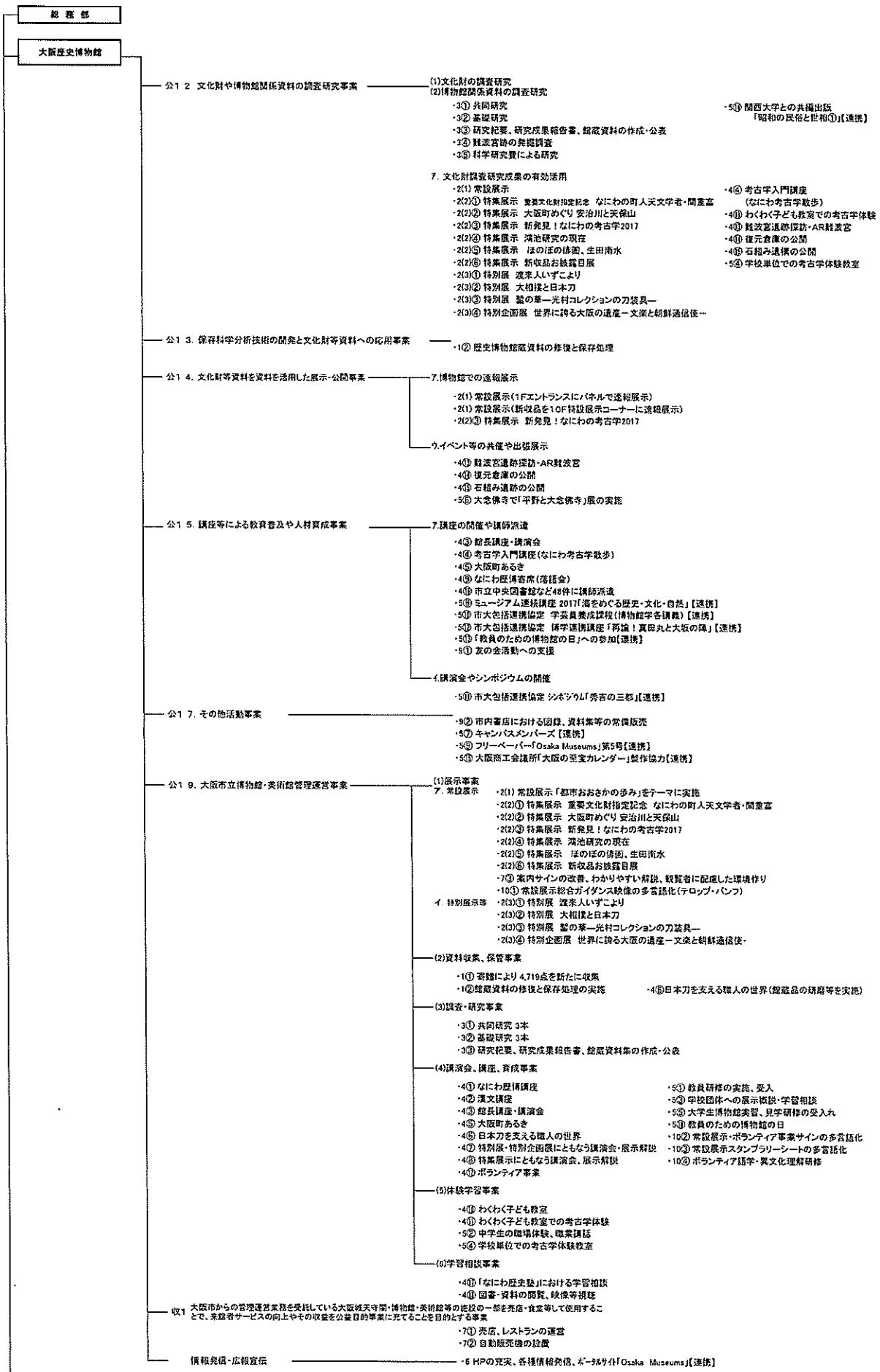
## 平成29年度 事業・組織体系図



## 平成29年度[公益事業対照表]

### 3. 大阪歴史博物館

## 平成29年度 事業・組織体系図

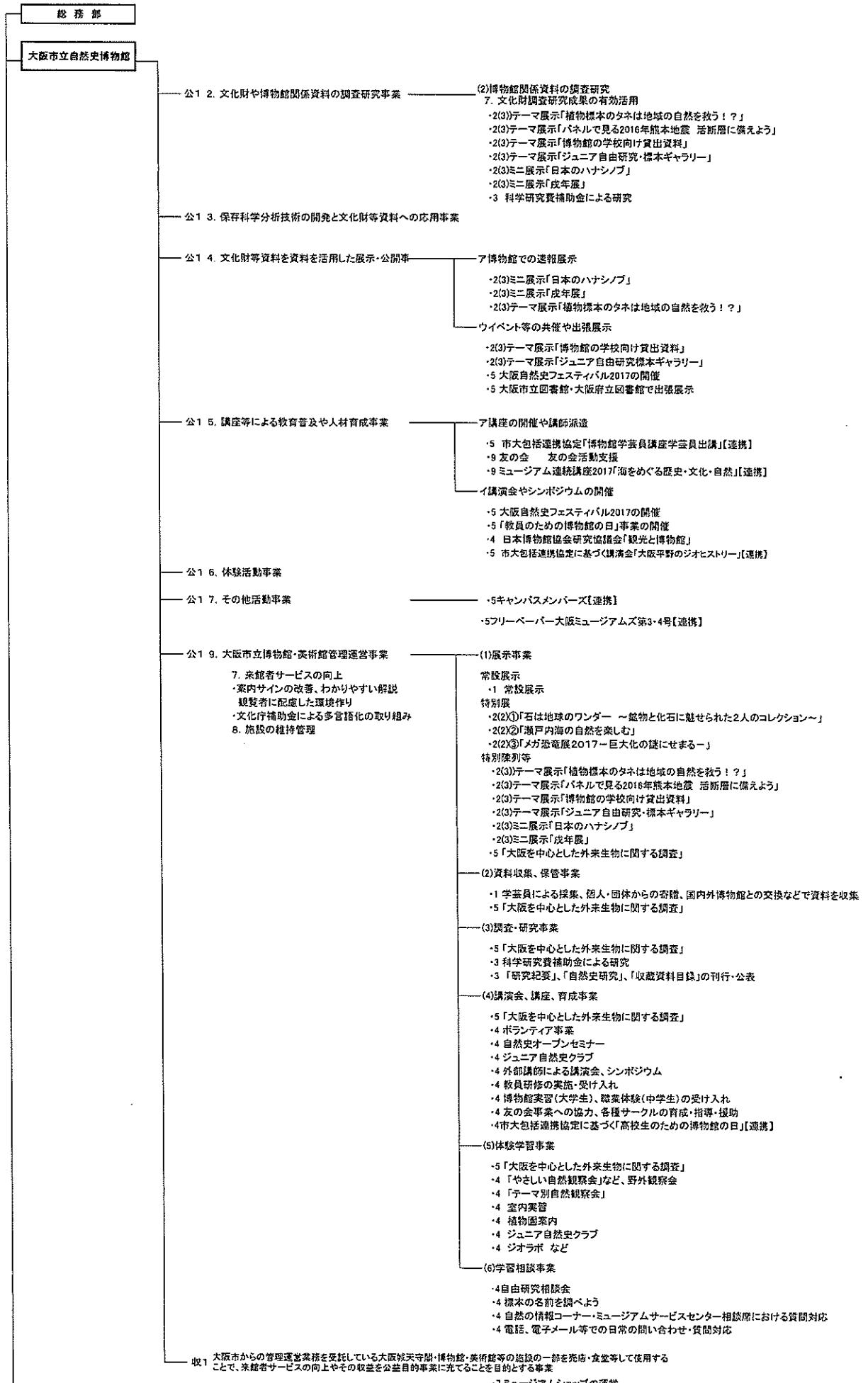


平成29年度[公益事業対照表]

4. 大阪市立自然史博物館

当該会公益性事業等の一覧	
事業報告書の実施	○
1. 資料の収集・保管事業	○
2. 展示事業	○
3. 研究事業	○
4. 教育・普及事業	○
5. 連携事業	○
6. 情報発信・広報宣伝	○
7. 受け取者サービスの向上	○
8. 施設の維持管理	○
9. 支援金	○
10. その他	○
収入	他1

## 平成29年度 事業・組織体系図



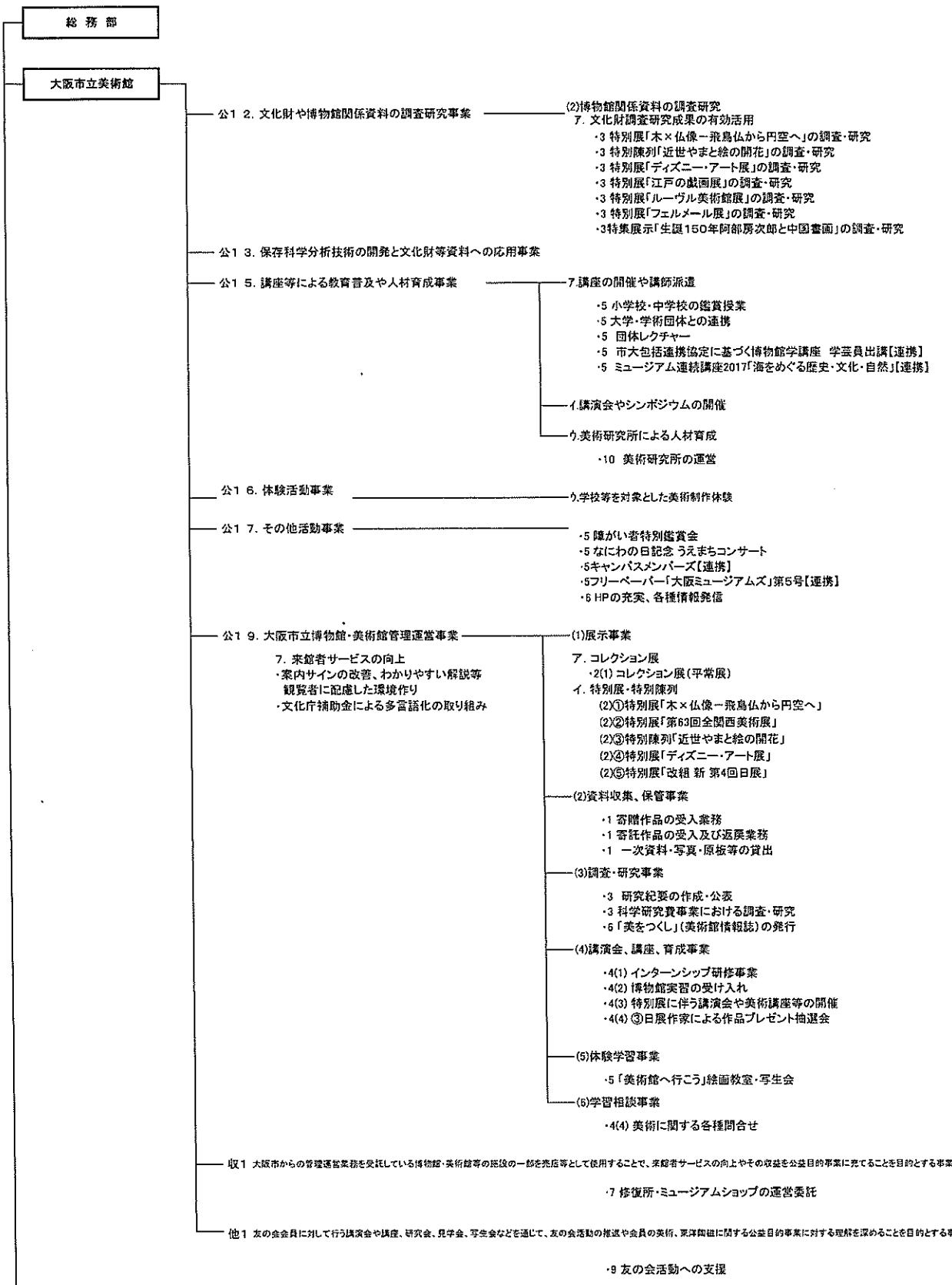
收1 大阪市からの管理運営業務を受託している大阪城天守閣・博物館・美術館等の施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

・7 ミュージアムショップの運営

## 平成29年度[公益事業対照表]

## 5. 大阪市立美術館

## 平成29年度 事業・組織体系図

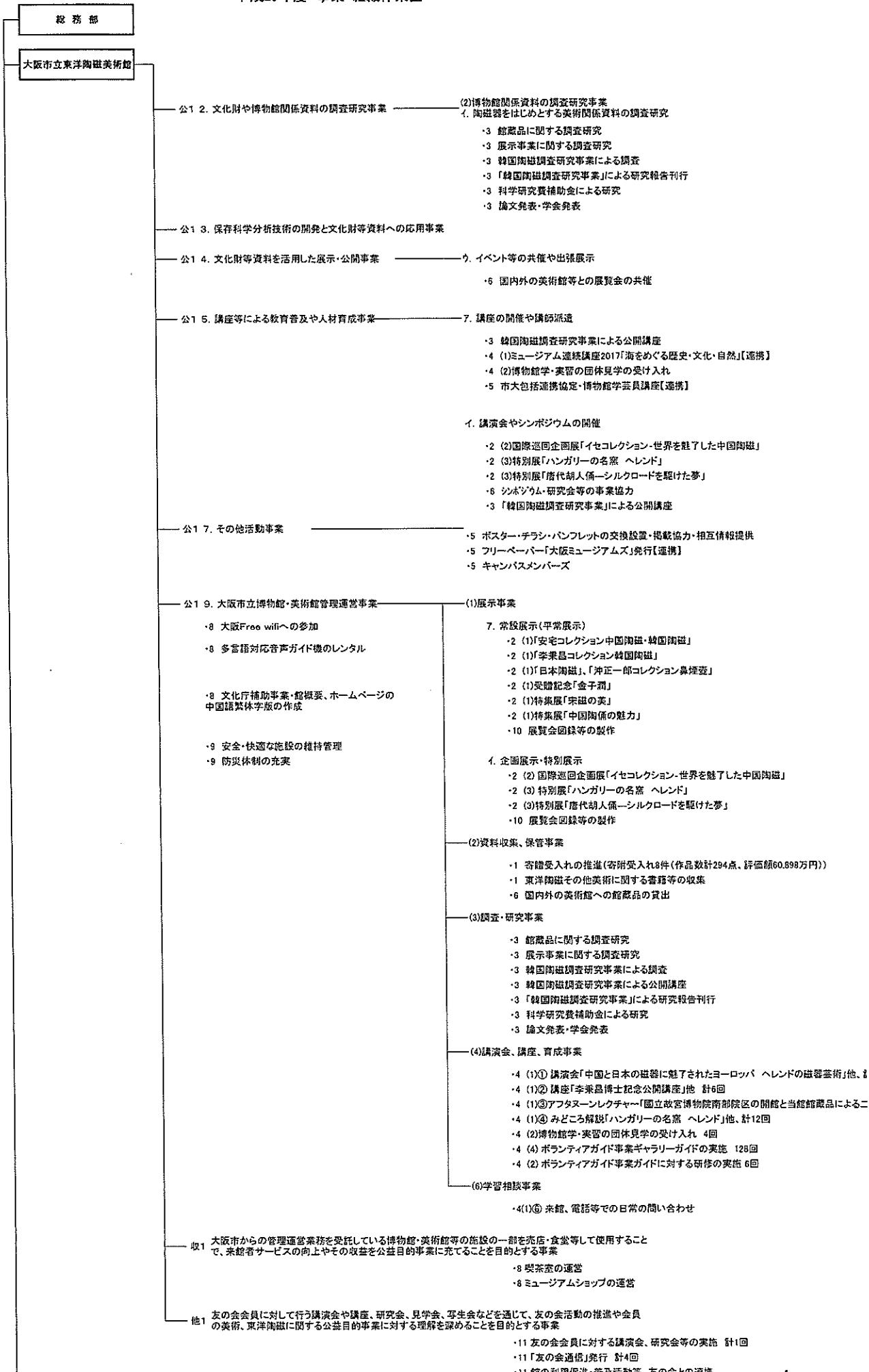


平成29年度[公益事業対照表]

6. 大阪市立東洋陶磁美術館

当協会公益事業の一覧		公1										公2	他1
事業報告書の事業名													
1. 資料の収集、保管事業													
寄贈品の受入 計9件(284点)											○		
東洋陶磁その他の美術に関する書籍等の収集											○		
2. 展示事業													
(1) 常設展示(平常展示)											○		
安宅コレクション中国陶磁・韓国陶磁											○		
李秉昌コレクション韓国陶磁											○		
日本陶磁、淨正→郎コレクション鼻煙壺											○		
特集展「宋磁の美」											○		
受贈記念「金子潤」											○		
特集展「中国陶磁の魅力」											○		
(2) 企画展示											○		
「イセコレクション・世界を魅了した中国陶磁」											○		
(3) 特別展示											○		
「ハンガリーの名窯 ヘレンド」											○		
「唐代胡人唐一ーシルクロードを駆けた夢」											○		
3. 調査研究事業													
鉢器に関する調査研究											○		
展示事業に関する調査研究											○		
「韓國陶磁調査研究事業」による調査											○		
「韓國陶磁調査研究事業」による公開講座											○		
「韓國陶磁調査研究事業」による研究報告刊行											○		
科学研究費補助金による研究											○		
論文発表・学会発表											○		
4. 教育普及事業													
(1) 講演会等の実施													
①講演会「中国と日本の磁器に魅了されたヨーロッパ:ヘレンドの磁器藝術」他、計2回											○		
②講座「李秉昌博士記念公開講座」他、計4回											○		
③アクリーン・レクチャー「金子潤作品の愛憎とその魅力」他、計2回											○		
④みどころ解説「ハンガリーの名窯 ヘレンド」他、計15回											○		
⑤来館、電話等での日常の問い合わせ											○		
⑥ミュージアム選抜講座2017「海をめぐる歴史・文化・自然」[選抜]											○		
(2) 博物館学・実習											○		
博物館学・実習の団体見学の受け入れ 4校 4回											○		
(3) ボランティアによるガイド事業											○		
ギャラリーガイドの実施 128回											○		
ガイドに対する研修の実施 6回											○		
5. 各種団体との連携													
ボスター・チラシ・パンフレットの交換設置・掲載協力・相互情報提供											○		
市大包括連携協定・博他館学芸員講座【連携】											○		
フリーペーパー「大阪ミーティングズ」発行【連携】											○		
キャンバスメンバー											○		
6. 他の博物館等との連携													
国内外の美術館への蔵品貸出											○		
国内外の美術館等との意見交換の共催											○		
シンポジウム・研究会等の事業協力											○		
7. 情報発信・広報宣伝											○		
各種情報発信、ポータルサイト「Osaka Museums」[連携]											○		
8. 来館者サービスの向上													
「大阪Free WiFi」への参加											○		
多言語対応音声ガイド機のレンタル											○		
文化庁補助事業・経営実証実験、ホームページの中国語翻訳作成											○		
案内サインの随時改善等、観覧者に配慮した環境作り											○		
来館者アンケートの実施と随時対応											○		
喫茶室の運営											○		
ミュージアムショップの運営											○		
9. 施設の維持管理													
安全・快適な施設の維持管理											○		
防災体制の充実											○		
10. 出版等事業											○		
展示会図録等の製作											○		
11. 友の会事業													
友の会員に対する講演会、研究会等の実施 計1回											○		
「友の会通信」の発行 4回											○		
誌の利用促進、普及活動等、友の会との連携											○		

## 平成29年度 事業・組織体系図



## 8 処 務

### (1) 処務事項

第1回理事会（決議の省略）	平成29年4月1日
第2回理事会（決議の省略）	平成29年5月1日
第1回評議員会（決議の省略）	平成29年5月15日
第3回理事会	平成29年6月7日
第2回評議員会	平成29年6月23日
第4回理事会	平成30年3月22日

### (2) 理事会及び評議員会に関する事項

会議名	開催年月日	開催場所／開催方法	議題
第1回理事会	平成29年4月1日	決議の省略	第1号議案 事務局長の任命にかかる理事の意思表示について 事務局長に任命するもの 花澤隆博 事務局長任命年月日 平成29年4月1日 就任役職 公益財団法人大阪市博物館協会事務局長
第2回理事会	平成29年5月1日	決議の省略	第1号議案 平成29年度第1回評議員会の開催について (1) 開催方法 決議の省略により開催する (2) 議題 評議員の選任、理事の選任について 第2号議案 小川芳和評議員の辞任に伴う後任評議員として多田勝哉氏を候補者とすること 第3号議案 花澤隆博評議員の辞任に伴う後任評議員として松浦功氏を候補者とすること 第4号議案 大上一光理事の辞任に伴う後任理事として花澤隆博氏を候補者とすること
第1回評議員会	平成29年5月15日	決議の省略	第1号議案 小川芳和評議員の辞任に伴う後任として多田勝哉氏を評議員に選任すること 就任予定日は、平成29年6月1日 第2号議案 花澤隆博評議員の辞任に伴う後任として松浦 功氏を評議員に選任すること 就任予定日は、平成29年6月1日 第3号議案 大上一光理事の辞任に伴う後任として花澤隆博氏を理事に選任すること 就任予定日は、平成29年6月1日

会議名	開催年月日	開催場所／開催方法	議題
第3回理事会	平成29年6月7日	大阪歴史博物館	第1号議案 専務理事の選定について 第2号議案 平成28年度事業報告について 第3号議案 平成28年度決算について 第4号議案 評議員会の招集について 報告事項 職務執行の状況について
第2回評議員会	平成29年6月23日	大阪歴史博物館	第1号議案 評議員の選任について 第2号議案 理事の選任について 第3号議案 平成28年度決算について 報告事項1 評議員・理事の選任、専務理事の選定について 報告事項2 平成28年度事業報告について
第4回理事会	平成30年3月22日	大阪歴史博物館	第1号議案 特定資産「東洋陶磁美術館高麗青磁展特定資産」の積立について 第2号議案 平成30年度事業計画について 第3号議案 平成30年度予算について 報告事項 職務執行の状況について

### (3) 理事及び監事一覧

平成30年3月31日現在

理事長	楞 川 義 郎	(公益財団法人大阪市博物館協会理事長)
専務理事	花 澤 隆 博	(公益財団法人大阪市博物館協会専務理事兼事務局長)
理 事	石 垣 忍	(岡山理科大学生物地球学部生物地球学科教授)
理 事	栄 原 永遠男	(大阪歴史博物館長)
理 事	谷 直 樹	(大阪市立住まいのミュージアム館長)
理 事	出 川 哲 朗	(大阪市立立東洋陶磁美術館長)
理 事	長 山 雅 一	(流通科学大学名誉教授)
理 事	福 永 伸 哉	(大阪大学大学院文学研究科教授)
監 事	伊 藤 由之助	(税理士)
監 事	島 村 美 樹	(弁護士)

### (4) 評議員一覧

平成30年3月31日現在

評議員	坂 井 秀 弥	(奈良大学文学部文化財学科教授)
評議員	武 田 佐知子	(大阪大学名誉教授)
評議員	多 田 勝 哉	(大阪市教育委員会事務局総務部長)
評議員	西 尾 方 宏	(西尾公認会計士事務所長)
評議員	穂 積 一 郎	(三井住友銀行総務部部長)
評議員	松 浦 功	(大阪市経済戦略局文化部長)
評議員	山 梨 俊 夫	(国立国際美術館長)
評議員	吉 田 健	(NHK大阪放送局副局長)